



49  
118  
199  
(5)

草稿

自  
至  
六  
く  
志

大槻文庫

✓

ナリはま 一經 (蛤の俗語合はまはま 謎詞 蛤の殻の両片の合口)

極々空接スルヲミテ遂ニスレト合フナシ 是れはまといふ音轉ナリ

物事ノ嘆遣フ。又ハ水はま 中ハ水ハまカガリ、水ハま

莫不原其(萬治) 蛤ハ今ハまトシ水ノ月

佐夜中山集(寛文)「アリガヒモ 何ハれはまノ生海魂」(老後述懐カト云)

乙向の岡(延寶)「上ヲ下へ、踏ムヤハま今日干瀉」

曾我金瓶(山)「言フト為ヌキナリハま」

俳諧良材(元禄)「人ハ皆、松ニ引カレ、子ハ白哉ト云フヲ引キテ、歌ニ老

握病ニ云ヒ詩ニ客情ナリト嫌ス連歌ニハ此格アリシヲ兼載」(猪苗

代氏連歌宗匠) 芋ノ山トカヤ筑ヒタカヒツルナリ

(山の芋ノ倒)

狂ニ投シテ云ルベシ  
早稲田

蛤の俗語合はまはま





三眼 回ルガ如ク感ス、メノヒス、目ククモ 眩暈  
 倭名抄三九 眩、女久流米久在方此字鏡 眩、目女久留  
 名義抄「眩、クルベクメメクル、メクル」

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

くりヤ 翺 〔倭名〕マリテ 鏡 くりヤリ 旋 回ルヲ九〔集韻〕

射鳥 射鳥

水合内ノ水ニ浮ヒ居ルヲ射ル矢。

甲子夜話四五「くりヤ箭射鳥」此「くりヤ」ハ  
 浮合ノ水上トニ居ルヲ射ルノ設ケテリ矢ノ制ハ矢  
 末ニ輕キ木ニテ小キ鏡ヲツク其先キ半月鏡ヲ打テ此  
 箭ヲ射テ放シ故ニ箭水上ヲ走リテ浮合ノ脇  
 腹ニ中ル

東大寺献物帳「鵬尾羽ニ似テ久瑠理一隻」  
 倭名抄十五「唐韻云翺射鳥矢名也字書類抄「翺、クル  
 以、身射水鳥之矢也」



正治ニ百首「我が恋はさるり射流ス川ノ瀬」たちぬる鳥ノア  
 ハカモナヒ(起つと竹前ノ由ニ立つとカサトヒ)  
 犬子集(寶永)「さうりく」トメグル区水鳥ヲ射テハ恨ブ矢ヒロノヒ

重訂  
 織工女  
 織物  
 推古  
 呉服  
 呉服  
 呉服  
 呉服  
 呉服

クレ 呉ハ韓語多ク轉(吳桃々々)文采ノ義織物ノ知ノ  
 意(白鳥肩吉説)高麗ノ久礼波久礼志モ織工ナルベク百滴ノ  
 吳服(西事亦織工ナリ)此吳服(追記)此久礼ノ語移リ吳國  
 一箱(上ノ上)韓ノ滯(移リ名ナリ)漢ニ織(秦ニ織ナリ)スベテ  
 織物ヲ以テ國名ト(セリ)  
 鼓那ノ吳國一箱揚子江南今南京地方六朝ノ政府(在リ)地  
(ナリ)云々後支那全箱トナリテ云々ト共ニ唱ヘラル  
(古ノ大レノ條ナリ)隨テスベテ支那渡テ物ニ付ラズル語トナリ  
 吳新(吳新)吳作(吳作)吳樂(吳樂)吳服(吳服)吳鼓(吳鼓)吳葦(吳葦)吳ノ  
 蚯蚓(吳)吳ノ椒(吳)吳ノ薑(吳)



應神紀三十七年二月一遣阿知使主於吳令承緒工女阿知使主  
 渡高麗國王乃副久礼波久礼志二人為導者得通吳吳  
 王於是與工女吳織穴織(竹文)  
 古事記中(應神)五百濟國王貢上手人吳服西素  
(竹文)

竹類考 淡竹類 淡竹久礼多外  
 本草和名上 淡竹久礼多外  
 律考 淡竹久礼多外  
 日本紀畧の弘仁四年 此歲吳竹實如麥其後枯盡

竹訓 梁  
 不在竹一吳  
 竹其葉仁壽  
 乃前北乃  
 三行自鳥  
 宿セソ社  
 明クルヲ待ツ  
 ガタ朝政  
 設也云云

クレた竹 吳竹一八吳國より移種云々  
 三 淡竹類 丈數尺 過キス 葉細クシテ黃潤云々 庭陰ニ植  
 工又杖トシ格子ナドニ用ヤル 禁中ノ仁壽為西向北間ニ吳竹  
 其ト云々吳竹ヲ植エサセタリ かなた竹(河竹)條ヲ備セ見ヨ  
 江家江次八相撰召仰自仁壽為西溝西向北折自吳竹其後  
 本草和名上 淡竹久礼多外 北行  
 傷名抄二十四 竹竹似草而竹節茂葉繁者也 吳竹久礼多外  
 律考 淡竹久礼多外  
 日本紀畧の弘仁四年 此歲吳竹實如麥其後枯盡







水三止(初瀬寺)石階ナルニ

井水

クレはより 吳織 吳服 (一はより 繒織 約)

(二) 應神天皇 湯代 吳國ヨリ石セル織工女(雄)

畧天皇ノ湯代(三幸上) あははより あまはよりト云フモ同シ其

各條(見ヨ) 事(水) 條(見ヨ)

應神化 三十七年三月 阿知使主等 吳國(邊) 吳王(於)

是時(工) 女(兄) 媛(弟) 媛(吳織) 定織(四) 媛(女)

古事記(出) 應神(百濟王) 事(百濟) 吳服(西)

素丹(出) 展(男) 織(工) 事(外) (九) 吳(條) 見ヨ

二頁ストアリ

(三) 特(シテ) 織(類) 織物(箱) 今織物(吳服) 云(ハ) 出(遺)



(三)山城國ハ瀬大原ヨリ出シテ京都市中ニ至ル其薪ノ種。大原木ト  
屑薪工隨(安永)ハ瀬小原ノ薪(イシノ)トモ  
(モトノ其條ヲ見ヨ)

端山ノ梢ヲ推シタメラ云ニ連綿トシテ灰ヲ燻ク如クニ置テ作リテシニ生木  
ヲ入レテ木ノ葉ニテ燻シタレバ水氣平ノ又ケテ黒木ノ一スボリカラテ京ニ持出テ  
其ルカ黒木ニテ云

是又京物語(天明)「黒木ハ云ニ京ノ木ノ枝ヲイブレタルモノリシテ其  
ハ昔ニ今ノ手ガヨコルトト皆危ナリ」

難州村志云六ヶ屋、黒木、多岐、自若比、矢野、大原、乾馬、土入、山、伐木  
木也

くろき 黒酒(酒ノ條ヲ見ヨ)

酒ノ名、新嘗、大嘗、奉、供、正、モ、白、酒、ト、並、ニ、稱、ス、古、醸、ル

ハ、詳、ナ、ス、或、ニ、テ、荒、稲、(粟)ニ、醱、セ、ル、カ、黒、酒、ト、稱、ス、(精、米)

ナル、ガ、白、酒、ト、レ、ト、平、精、(真、精)

平安朝ノ時、酒、ハ、白、酒、ト、稱、ス、常、山、ノ、燒、灰、ト、入、ル、黒、酒、ト、稱、ス

室、所、時、代、ナル、ハ、黒、胡、麻、粉、ヲ、入、レ、テ、黒、酒、ト、作、リ

新嘗金 白黒ニ酒料

造酒司式「造酒者米一石以二斗八升五合為釀、米七斗一升零為飯、合

水五斗、各以時令為二瓊、之、熟、後、以、次、佐、木、灰、三、升、和、合、一、瓊、

稱、稱、運、送、其、一、瓊、不、知、是、稱、白、者、

△次





佛新カマヤニス、ケタレバ、黒戸カマヤニテトシ

(三) 佛壇ノ稱、黒戸ノ間アリト云フ

後カマヤノ稱、多クのみと、禁裏女中詞ニ佛壇ヲ佛屋戸ト云フ

松屋筆記ハ十三、禁中ノ佛壇、黒戸ノ間ニテ由、遠碧軒記ノ

上ノ上卷、居所新ニ見ユ

(三) 芝居ニ舞臺、演藝中、役者、後見ス者、芝居ニ着テ、黒戸ニテ、頭、白シ

くろん、ばう 黒坊ハ印度ノ錫蘭島ノ地名、崑崙コロンボ (Columbo) 也

古クハ崑崙トテ、人ト呼カマヤヘリ、其條ヲ見テ、其國人ノ膚、色、黒クテ、遂ニ

黒ノ意トシ、擬人シテ、黒坊ト稱シ、音便ニ、くろん、ばうト云フナリ、櫻坊

さくらん、ばう、隠坊カマヤがくろん、ばう、皇極紀元年二月、崑崙使ノ通稱ニ傳

名、於崑崙、音、久員、爾、爾、又、晋、李、太后、形、長、而、色、黒、宮、人、皆、謂、之

崑崙、命、今、呼、崑崙、奴、為、久、呂、年、坊、是、也、

(二) 印度人及ヒ阿非利洲ノ黑人種、稱、約、ク、くろん、ば、

本國記十六、土佐國寄船、くろん、ば、二百五十人、カマヤ、犬子集、(實

永) 黒坊、ハ、ウ、ラ、ナ、日、和、性、ト、利、ル、牛、皮、ヲ、張、ル、ト、大、の、草、依、(實、亦) 上、黒、

もの、サ、錯、摩、堂、ヲ、見、バ、煤、ケ、ク、不、意、ノ、貌、ハ、黒、坊、ガ、勝、ニ、ケ、ル、ト、疑、ハ、レ、續、魚

二  
(三) 常人ノ色  
ノ黒キヲ嘲リ  
テ呼ブヲ



くろやき 黒焼物ヲ焼キテ黒キ灰トシタルモノ多ク、其トシテ飲ミ又ハ百病  
 三淨丸ニ用ルモノモ云フ 動物ナルハ、蒸焼ハ時肉ヨリ出ル脂液ナド、中ニ含マレ  
 性々カアル特有ナル作用ヲナスモノカト云フ 民間ニテ用ルモノ、二三ヲ云ハバ  
 鹿角膠、鱉甲、烏雞(無通)烏雞(喘息)海雀、鯨魚、鯨魚、鯨魚(徴毒)  
 山鳥(肺病)鵝(疔毒)八月鯉(眼病)蝶蝶、黒焼ヲ女、振リ  
 ハクレバ、惚惚トナルヲ其調ヲ知レズ

閑田次筆、一、まゝ、たぢ、下總國大塚村、私教  
 寺ノ僧、山屋ニテ、古曆ヲ雨相ニシテ  
 付ケレハ、忽々流ニタルトナリ

くろいし 懐紙(トコロガミ) 懐中ノ用紙、昔ハ男子ハ階級紙ヲ  
 用テ、色紙ヲ携ヘ、席上ニ其紙ヲ取出シテ、書キ  
 後ニ詩歌、俳句ヲ云云ニ詠進スル用トシテ、檀紙又ハ杉葉紙  
 ノ人王紙ヲ用ルル其者、式ニ依リ、暮春同、詠隔水花光ナ  
 ト記シテ、次ニ官位姓名ヲ書シ、次ニ歌ヲ四行ニシテ、末行ヲ三字ニ書  
 ク、  
 吾々鏡、三十四、仁治二年、有、  
 砂進、懐紙、  
 成、  
 月、

くらやき 黒燒物ヲ燒キテ黒キ灰トシタルモノ多ク、其トシテ飲ミ又ハ百病  
ニ淨シク用ルモノト云フ 動物タルモノニ燒ケル時、肉ヨリ出ル脂液ナド、中ニ含マレ  
 性々カアル特有ナル作用ヲナスモノカレニテ、民間ニテ用ルモノニ二三ノ云ハバ  
 鹿島(鹿島) 鹿島(鹿島) 鹿島(鹿島) 鹿島(鹿島) 鹿島(鹿島) 鹿島(鹿島) 鹿島(鹿島) 鹿島(鹿島)  
 山鳥(肺病) 鷓(赤華) 八目鰻(眼病) 蝶蝶(黒燒) 女(振)  
ハクレバ、惚栗トナルヲ其調ヲ知レズ

くらやし 懐紙(トコロガミ) 懐中ノ用紙、昔ハ男子ハ階級紙ヲ  
 用テ、色紙ヲ携ルハ、席上ニ其紙ヲ取ルテ、  
 後ニ詩歌、  
 人王紙ヲ用ル、其者式ニ於テ、  
 記シテ、次ニ官位姓名ヲ書シ、次ニ歌ヲ四行ニシテ、末行ヲ三字ニ書  
 吾妻鏡、三十四仁治二年八月廿五、有治宮座、和歌清命、女房  
 初進懐紙  
 成吉思汗、三十三平氏九月十二夜、歌謡、懐紙ヲ進メ、九、寄  
 明徳、三十三、  
 女房、守忠度(歌)



三内口決(永正)「會所押板書院等如字有庭或有池」  
 (三)特ニ所村トドテ所役人村役人トドテ奉務ニシテ集命所

Blank lined area for writing on the right page.

女(イ)セ(イ)魁星

(福家漢儀有) 小倉夜合 耶腹 満タテ

(一)北斗星ノ第一星ニ名支那ニ 柳葉及第一杖元ノ箱

シ用サレル 史記天官書註「魁、北斗星ノ第一星也」 出ツサモル

(三)支那校本書ノ箱ノ天ノ首ニ多ク 魁星ノ象トシテ 印スルモ

夜叉形ノ者 左中ニ竹筆一枝ヲ取り 右中ニ 鏡一鏡ヲ握リ 左上ニ

斗ヲ圍シテ 左膝ヲ曲ケテ 踏ル杖ヲ持テ 魁星 踏キト云フ 魁

ヲ鬼斗トシ 筆鏡ノ必定ニ 魁星トシ 必定杖元ノ 魁タルヲ 湯ト

云フ 偶ニ 魁トシト云フ 書目録ノ書ヲ 堂ヲカケテ 魁(堯山堂外記)

魁 魁星ヲ 文ニ 尊星ト 湯トシテ 云フ者アリ

標ニシテ 標ヲカケルニ 云フ 神林ノ 小倉夜合ニ 筆石ト云フ



ハトモ云フ 同ニ意ナリ 尊ニ居 相應ノ名ナリ、ワビテ 一段面白キ文字ナリ 古  
事ナカニ

ムウラフ 皇祖一祖 始リテ本ニ祖宗ト支那ニテ先祖ト宗廟ヲ

稱スル 諸國ニ創業有ル者ヲ祖トシ守成有徳ノ者ヲ宗トシ合セテ祖先ト稱ス

神祖 天皇ノ神祖 神皇ノ神祖 天照大神マテテ中ニ奉リ大

凡ハハ 高皇產靈神 神皇產靈神 天照大神マテテ中ニ奉リ大

照大神マテテ中ニ奉リ大 皇祖トシテ人 麒麟草等又合尊

皇祖トシテ中ニ奉リ大 皇祖トシテ中ニ奉リ大 皇祖トシテ中ニ奉リ大

皇祖トシテ中ニ奉リ大 皇祖トシテ中ニ奉リ大 皇祖トシテ中ニ奉リ大

皇祖トシテ中ニ奉リ大 皇祖トシテ中ニ奉リ大 皇祖トシテ中ニ奉リ大

皇祖トシテ中ニ奉リ大 皇祖トシテ中ニ奉リ大 皇祖トシテ中ニ奉リ大





(三) 締盟各君主國ノ君主、稱號ノ入シテ、皆然リ

「英吉利、フランス、プロシヤ、イタリア」

(四) 自耳丹、オランダ、(皇立)ノ條ヲ見ヨ。

Handwritten text in vertical columns, mostly illegible due to fading.

トクニトシ重シクモ、光明道照ニ觀照是善經九ノ光明道照

トクニトシ重シクモ、光明道照ニ觀照是善經九ノ光明道照

トクニトシ重シクモ、光明道照ニ觀照是善經九ノ光明道照

トクニトシ重シクモ、光明道照ニ觀照是善經九ノ光明道照

トクニトシ重シクモ、光明道照ニ觀照是善經九ノ光明道照

トクニトシ重シクモ、光明道照ニ觀照是善經九ノ光明道照

トクニトシ重シクモ、光明道照ニ觀照是善經九ノ光明道照

トクニトシ重シクモ、光明道照ニ觀照是善經九ノ光明道照

トクニトシ重シクモ、光明道照ニ觀照是善經九ノ光明道照

トクニトシ重シクモ、光明道照ニ觀照是善經九ノ光明道照

トクニトシ重シクモ、光明道照ニ觀照是善經九ノ光明道照

二書目共ニ光明真言語ナシ

古今ノ釋教

Handwritten text in vertical columns, mostly illegible due to fading.





在神紀三十七年二月遣阿知使主於吳令求緙工女阿知  
渡其處王乃副久礼汝久礼志又為導者得通吳  
吳王與工女吳緙穴緙(竹文)

*[Faint handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side]*

火燒布(火燒布) 火燒布(火燒布) 火燒布(火燒布)

濯衣垢也

(一) 支那支那 火鼠火鼠 毛毛 緙緙 布布 火燒布火燒布

水經注水經注 東方朔神異傳東方朔神異傳 南方有火山云南方有火山云 火中有鼠重百斤

毛長三尺鼠細如絲色白云毛長三尺鼠細如絲色白云 取其毛以為布謂之火燒布

周書周書 火燒布垢必投諸火火燒布垢必投諸火 布則火色垢則灰色布則火色垢則灰色 火振之臨

然疑乎雪焉

(三) 石綿石綿 緙布緙布 其條其條 見日

*[Faint handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side]*



(四) ヤリテ遊女屋ニ遊女、振テ老婦ノ類。(前項ヲ見) 搦田  
長 當字ニ花車、  
苛酷キヲ喜リトス

長所女腹切(一) 中、おん化カ浮カ又貌ツキ、火車ニ真主モ氣茶ノ毒カ  
リ壽川松(一) 通行「花車カ蓄ケ口舌ノ門、遺手カ印ク先ガ睡リ」  
(五) 火輪車ノ畧、汽車。

*(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)*

台志ヨ 過所(一) 過所ノ畧ル(ハカ)

券 (三モヤ)

官ヨリ出ダサル、関門通行ノ券カ、船ニモアリ 過所船ノ條ヲ

見ヨ 鎌倉倉庫出草村ヨリ出タルニ、過書トシテ(同音  
九ニ因テ誤記セルカト云) 後、專ラ関所ニ印出カ 関所  
手形是ナリ

釋名「過所至關津以テ之云傳過也移所在以  
為信」 通 今義解九関ニ凡欲度関者皆經

本部本司請過所ニ 後化六雲多龜元年五月「諸  
國百姓往來過所田部國印」 万十五 過所ナ  
ニ関カヒ越スルホトキス 誰カ身ニモカモ止マズ通ハシカ

カ身ニテモカナレカレ(古義)

吾妻鏡廿七、寛喜元年十月九日、長尾寺院主云、上洛之

間賜路次過者相州武州連署廿也(相州相模守

北條時房武州武藏守北條泰時)

實家名目抄職名十四者次過者奉行、若次驛路之意

コレテ過者六者過所ナリ所ト者ト者同レキ故、俗語テ過者ニ

作リシト見ユ此奉行ハス、テ路次往還ノ事ヲツカサドリ過者ヲ下

ヤル有コナリ

ハカレ。國有(國定義(國定義))

台去ヨ、ナハ(過所船通者也)

(二)古ハ河ニ関アル所又ハ橋津長江ヲ過ケル船ノ過所(通行手形ナリ

其條ヲ見ヨ)ヲ要シタルモノ

唐令、諸渡河津、及乘船渡上下經津者皆當有過所

關帝令、船筏經河過者亦請過所

(三)渡川ノ過者船ノ昔、渡ヨリ神崎難波へ通船セシヨリ渡船ト云ハ

シ、伏見城御堂昌子時ヨリ渡ヲ越エテ伏見マテ止リ因テ免許ノ書ヲ要

シタルナリト云、後ノ三十石船、渡川ノ船、是レナリ、又天道船

海録、四、過所船、自道往來、過所船ト云、名目見エテ、太平記、東下

云、今モ京ニ過所船ト云、モナルハ元來通事ヲ致シ置テ、關所ニ往來ヲ



自由ニヤセル毎ヲ言フ今ハ毎ノ名トナリ

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

四本数雖  
志四十六号  
七  
本年四月迄

大小種々  
作ル

くつじ 活字

一 整板、如ク固定、何モ何版ニモ活用ニ得ル故、名動

文字ヲ一字ヲ木銅、<sup>又</sup>作リツケタルモノ、コレヲ組<sup>并植工</sup>ミテ版トスルヲ活

字版<sup>原キテ活版</sup>トシ、コレニ墨ヲ塗り、白紙ニ摺リツケテ、其ノ籍ニ作ルヲ活字本、墨

ニテ活本トス。活字版ヲ古クハ一字板、又植字板トシ、ヒキ、聚珍版<sup>活字本</sup>

我が邦、活字ハ朝鮮ヨリ傳<sup>手行ヒ居リシヤ</sup>ヒ、其ノ後、唐ヨリ傳<sup>其</sup>ヒ、永年、中彼ノ政府ノ事

業、コレトシ、山事ヲ志<sup>手行ヒ居リシヤ</sup>シ、其ノ後、文禄ノ朝鮮役ノ時、將士携<sup>其</sup>ヒ、帰リ、其ノ

業、唐ヨリシ、江戶時代ノ末、コレヲ活字ニ制<sup>其</sup>シ、行ヒ、コレヨリ、変ヒ、今ノ活

大木ナリ、排版<sup>其</sup>、年々、廢セラル

遺老物語(其任)ハ、一字板、其處入リシ故也

文禄活字版蒙求跋、洛陽住居、南庵道喜新刊、一字板編



尾細古文似之

Faint handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page.

くまのり 華表

又大路又又予

(一) 支那ニテ門前ニ建テオク標木一柱ナルアリニ柱ナルアリ、陵墓ノ前

ニ建ツルアリ 搜神記、遼東城外有<sup>一</sup>柱忽有<sup>一</sup>白鶴集<sup>一</sup>頭云<sup>一</sup>

古今注「堯設<sup>一</sup>讎<sup>一</sup>諂<sup>一</sup>之木今之華表也以横木ニ又柱頭ニ如<sup>一</sup>華

形如<sup>一</sup>枯<sup>一</sup>樹大路ニ交<sup>一</sup>衛<sup>一</sup>志<sup>一</sup>施<sup>一</sup>焉<sup>一</sup> 事物紀原、遼東城外有<sup>一</sup>

事物紀原、華表後人<sup>一</sup>之<sup>一</sup>建<sup>一</sup>於<sup>一</sup>塚<sup>一</sup>墓<sup>一</sup>之前<sup>一</sup>以<sup>一</sup>記<sup>一</sup>其<sup>一</sup>諺<sup>一</sup>也<sup>一</sup> 應<sup>一</sup>也<sup>一</sup>

劭曰今古外梁頭四柱木是也南史陳宣帝紀大建九年七月庚

辰大雨霽<sup>一</sup>衣<sup>一</sup>萬安陵華表<sup>一</sup>

(三) 一ノ字我が國ニハ神門即今鳥居ノ事ニ同ナリ

下野集、神祇門、鳥居、唐之<sup>一</sup>代表<sup>一</sup>、<sup>一</sup>和<sup>一</sup>南<sup>一</sup>雅<sup>一</sup>中<sup>一</sup>唐<sup>一</sup>表<sup>一</sup>

下野集

白氏文集

十九第<sup>一</sup>三

松栢非<sup>一</sup>

一那<sup>一</sup>澤<sup>一</sup>

遼東<sup>一</sup>碑

下<sup>一</sup>來<sup>一</sup>



神皇抄  
(實表)  
文五年武  
嘉禎  
倉津厨  
當時

リ候フヤラム云々(抄本文) 一條兼長作ト云  
 澤瑠瑠物語(校訂評釋本) 十二段 赤曹司赤曹司 東下赤曹司 末文  
矢野 宿六廿四貫ノ所ヲ君ニ示スヘシ(我經澤瑠瑠姫  
ニテ云ル) 是レ(永高) 當時ノ  
 田園類談 鎌倉將軍家ノ末 京都將軍家ノ初ヨリ田  
 地ノ買ト云フ事始マリテ知行領ニナド直ニ此貫高ヲ用  
 テ東國一國一國一統行シ(日本書紀)  
 ナリ其後關東ニ水高ト云フ事始マリシガ世上ニ此貫高  
 ト云フ事思ハ誤リ

今ハ一貫ハ支那唐代ノ初鑄ノ開元通寶錢一文ノ目方三起  
 凡テ一文ガ一文目ニテ千文ガ母貫ナリ(前條ヲ見) 我カ寛永錢  
 初鑄一文モコレト云フ

秤目ニ千文ノ稱  
 合類ノ昂用(元禄) 十數量 一貫文 千錢目也 其重猶錢  
 十貫文之義  
 元禄板新編慶劫記 金千枚ニ重サ十四貫目ナリ





ナ腰元云レ(廿之居重事)竹丈點前白附ソリソリトソリソリト

ナカクテマ首ソリト立敷柄(嬉遊笑覧三)

浦島年代記龍宮七世鏡(恋三良奈地ヲ何置装ヤ實閑

刺イタ長刀(出)

(一)實大國... (二)實大國... (三)實大國... (四)實大國... (五)實大國... (六)實大國... (七)實大國... (八)實大國... (九)實大國... (十)實大國...

勸進進導義

ムンゴシ 勸進(一)自己ノ良思ヨリテ寄進ニ對スル語ナル也

(二)勸化(一)佛寺ニ要スル金錢材料ヲ諸人ヨリ募ル事スルノ莫縁

取(一)出車取(二)相摸

宇治始遷(十二)材木取ラムトテ一ニ集メテ物ヲ以テ自運ビテ此陸陽

所ニ取ラセツ

尺素往來「為勸進」新座本座田楽云、可播所能候殊

見物志候核敷四五間打簡可被塞之候

盛衰記(十八)又覺高雄一、自力造營ノ事イカテカ叶フキナレ

ハ知識奉ルカ、一ニテ自他ノ利益ヲ遍クセム、一聖一海一相摸

(三)云々食ノ事ヲ伊豆ニテカシムト云、越後出雲ニテカシムト云ノ勸





第一本(天竺)江戶めつ下所(神田多所)ニ水玄加雄(可松)長傳  
ナト君凡之各取以久尼アリシ由ヲ記スル  
寛保三年四月所觸、梅進以久尼花垂ナル衣類着上女体  
終敷不届ニ候古中宿等致候者有之候ハ早々可訴  
出(嬉)書(後)隨(九) 九

Handwritten notes in smaller characters, including the name '梅進' (Umeshi).

人見じん、おやう 勸進帳

(一)堂塔建立ナド、ノノ趣意ヲ記シテ 卷物ナドトシテモ、僧徒  
ノ諸人ニ、ノノ時ニ候ニ聞カス。勸進帳。ヤ景縁竹澤

平家五ノ、ノノ此寺ヲ修造セト思フ大野ヲ發シ、ノノヲ捧ゲテ十方檀  
那ヲ勸メアリク(文書上ノガ高雄寺アリ)

謡曲、安宅、南都東大寺ノ勸進ト仰セ候フ間定ラ、ノノ市  
座ナキ事ニ候フマ、ジ、ノノヲ遊ハサレ候ハ(富樫左衛門カ朝慶  
ニ云ヘル詞)

ツツ

(三)歌舞妓十八番中外野

天保十一年

元祖市川團十郎才牛が百九十年追善考七代目團十郎が演  
せし狂言より謡曲安宅因作曲し勝色之長唄作曲ス

Blank lined area for notes on the right page.

論語

△保元 新院召参朝 其後自然事出テ平元時ニ冠者ハシ

人ハ志ヤ 冠者ハ元服シ加冠シ冠者ニ義ノ志ヤハ音界ナリ(合歡ガ

ムカノ木 裾葉ノ下ニ甚文ガ見ル)人ノ志ヤ音界ナリ(後者モ志ヤ)

(二)少年元服セシ人 権又(又)ノ志ヤ人ノ志ヤハ音界ナリ

酒冠者ハ既載 不冠者ハ兼テ 東向キ倚子ニテ

平治三 眉目美キニハ必殿ニ姫持タシ者ハ堀ミ取リ

奉リ云 源一 桐壺ヤ 今見ガ 御座 引入ノ大屋ノ湯座 湯前

△(元服ノ席ナリ) 折シモ之ガ 君参リタリ 清水冠者(一) 借ガ

(三)人ノ志ヤハ少包ノ未熟タルヲ 駭ニテ云フ 詔ニ用カラル

明月記 嘉禄元年十月廿日 様ノ冠者ナリト云フ事 聞入シテ又ハ

悪シキ人耳ニ不可聞入ニ 傳訓梨中ハ高ノ人ハ之ハ平元ガ物ナリ

冠者五人 人浴乎沂 風乎舞雩 咏而归 地ニ淫風ナリ 天ニ淫風ナリ 天ニ淫風ナリ 天ニ淫風ナリ

辻冠者ハ元華枯物語ニ青侍四冠者ト見エリ賤ナル詞也勤  
家竹取ニ子身小冠者ト云リ

召使若者  
(三) 少年イ召使(家来)後者(從僕)

沙石集ハ上「郎等冠者侷」在言記「太郎冠者次郎冠者」

10 根岸 表むらや製

クワルビヤウ 華勸請

(一) 佛ヲ勸ノ請スルヲ来臨ヲ請フ

甘露寺障本行經「一一如來一談話」

法華經化城喻品「佛請世尊轉於法輪」

傳證佛已

(三) 八幡大菩薩能野能野権現ナド申スヨリ移シテ神託ヲ請ヒ

奉ルニモ云フ

保元法皇能野能野參詣「不思議ノ瑞相アリ権現ヲ一ニ奉

テハヤ

盛衰記ニ云胡德樂「神託ニ任セテ一ノ勅使トシテ

百上長天字依立テレキケレバ  
(三)轉シテ、神佛ノ靈ヲ離レ死ニ移シ祀ル。

Handwritten notes in vertical columns, including the number 105742 and the characters 權記.

人<sup>カ</sup>ん<sup>カ</sup>ぶ<sup>カ</sup>ユ 一母貝主<sup>首</sup> (首に母貝才義、人<sup>カ</sup>ん<sup>カ</sup>才(貫)ノ條ヲ見ヨ母貝主

ト書ケル<sup>カ</sup> 當字ナルヘシ

(二)頭<sup>カ</sup>立ツ。又其人。

考經註「顔回、閔子者、孔門三千人ノ弟子、母貝首」

慈恩傳、大唐三藏聖教序、執母貝衆經之首」山三訓、

内裏式、新嘗祭、授母貝首人<sup>カ</sup>註「不論尊卑、授小齋

ノ第一人也」

(三)藏人頭<sup>カ</sup>、吳籍、殿上ニテ第一人ナレバナリ。又、名ニズ。

職原抄、... 聴<sup>カ</sup>界<sup>カ</sup>野<sup>カ</sup>、以<sup>カ</sup>頭<sup>カ</sup>考<sup>カ</sup>母貝主<sup>カ</sup>

平家十三、吉田大納言沙汰、夕島ノ母貝首ヲ經テ云、大納言ニ至レリ



之次云々其傳様三歌

東山殿年中行草、十有梅歳暮由卷数之畢ハ云々梅ノ古ハ元ニ結付ケ候フアイクツニ取リアツメ本ト末ト紙様ニ結ラ云々箱入レ候ラバ御廣々蓋ニ居立候ラ云々所々ヨリノ御卷数ト申入レ候テ御直敷ノ申ス者也

清湯殿上の日記元慶三年十有廿二日伏見ハはんぢや院御くわんぢや深草ノあらんぢや院ヨリモ御卷数ノナル

皇表詔廿六源公追討使、白津衣立鳥帽子着老翁六人梅格卷数付ケテ各捧ゲテ六人ノ大將軍ニ奉ル川出吉コト也  
御指各卷数ヲ披イテ謹ミタマヒケル

ムロ

見志ヨ名一還昇ハムンシヨウノ讀例ハ見證先ぞ承和

新名ガキ名目抄還昇者音ホボウ也而也名目志也

又還昇也上ニヒカレテ濁ルナリ

還殿上殿上人ノ昇殿ヲ傳メシカ再ヒ昇殿セシメル也

藏人ノ就キテスハ藏人ハ六位ナリトモ昇殿スルモノナルガ其

極サ脇ノ人巡遊討ニアツキテ五位ニ叙受討スレバコレヲ藏人五位

ト云フ五位ノ新藏人ト九因テ鎮退ス後特ニ昇殿ヲ聽サ

ルヲ還昇ト云フナリ(環翠軒清原直賢)

職原抄私抄殿上ヨリ地下ヘオリテ又昇殿スルヲ還昇ノ殿上ト云

フナリ

禁秘湯坊中藏人事、叙爵後或月内或次月還昇  
 公卿補任、後冷泉永承三年、藤原經季、長元四年三月廿八日  
 補五位藏人、同六年正月五日叙從四位下、同九日還昇  
 袂衣、下一、ヨシ見タマヘヨ來年、カリカヘリ、スレシテ五  
 位、藏人ニナリテ、見セ奉ル  
 千載十七、雜中、還昇ニ侍リケル人、許ニツクシ侍リケル、ウシガラ、  
 ヨソノ袖ニテ包カテ、立帰リタル天ノ羽衣、名目抄詳註私儀、還  
 昇、千載集雜中、還昇ニ侍リケル云、是六位ノ藏人五  
 位、叙シテカヘリ、殿上ル事ナリ  
 枕草子ニ、ニテ敘、藏人階名人云、藏人の五位トテソレヲモテ  
 叙シ、シウツカヘド云、

梵語阿婆盧吉帝濕伐羅譯

人ノ心セ、老ノボカツ、觀世音菩薩佛、本發至善菩薩トモ、  
 殊勝佛、脇侍ナリ、ハ世間ノ善惡、音聲ヲ觀スル意、是レ舊  
 譯ナリ、新譯ニ觀自在トス、觀力自在ナル義、  
 佛ノ名、勢至菩薩、阿彌陀佛ノ脇侍ナリ、慈悲救濟  
 拔苦與樂ノ徳アリトス、畧シテ字ニ觀音トス、又觀自在菩薩  
 薩、施世畏者、三十三身ニ化現シテ衆生ヲ活度ス、  
 聖觀音、千手、如意輪、十一面、消腫、馬頭、等、六、一、  
 其修持具、法華經、普門品、若有無量百千億萬衆生受  
 諸惱苦云、一心稱名觀世音菩薩、即時觀其音聲、皆得  
 解脫、







二 逢坂原 慶長七之ヲ 相模國 足柄坂 碓氷坂 二 關  
 日設ルニルニ及ヒテ 關東ヲ 稱ス 此ニ 概以東ノ地方ヲ 移リ 又坂  
 東ノ 山東 昂チ 相模ニ 移ル 安房 上信 下信 常陸 上野 下野  
 六國 下ニシテ 關東ハ 州 關六州 東ハ 州 又坂東ハ 州トモテ 稱ス  
 實ニ 關東ニ 陸奥 出羽 加トテ 關東ト 稱ス 又 日本國 稱ス  
 黃老 經 記  
 關國

享祿本 野取 三代 於 十六 昌泰 二年 九月 十九 太政官 符 相模  
 國 足柄坂 上野國 碓氷坂 云々 件 西關 處 特置 關門  
 支那 三ノ 丞谷 關 三ノ 關東 西ノ 關西 云々 又 關左 關右 云々  
 國 三ノ 文 皇 二 從ノ 人 關東 關左 云々 然レ 今 關西 云々 注  
 八 關東 三ノ 戶 漢 然レ 屋 張 美 濃 以 西 三 稱 大 凡 云々

延慶本 平家 五本 兵衛 佐 軍 兵 等 付 宇治 勢 田 坂 東 本 丹

十 關東 妙 第一 大河 也 (利根川 云々)

任 畧 河 記 建武 元年 三月 成 良 親 王 御 時 足 利 直 義 副

八 關東 八 箇 國 守 護 之 鎌 倉 君 下 向

建武 年間 記 於 決 斷 所 可 有 沙 汰 條 々 關東 十 箇 國 成 敗

事

太平 記 上 諸 將 被 進 軍 於 船 上 一 語 東 八 箇 國 勢 力 以

日本 國 勢 之 勢 云々

合 類 管 用 (元 祿) 一 乾 坤 關 東 關 左 坂 東 並 同

(三) 關 東 八 箇 國 守 護 之 鎌 倉 君 下 向

(三) 鎌倉時代ニ京都ヨリ鎌倉幕府又ニ將軍ヲ關  
 東ト遷<sup>遷</sup>稱シ又關<sup>關</sup>ノ東ト云ニ室町時代ニ關東管領  
 關東將軍ヲ稱シ江戸時代ニ江戸幕府又ニ將軍ヲ稱  
 増鏡ハシカハシヤ<sup>増鏡</sup>茅毛山石清水ノ流レヲワケテセキムハガレ  
 若君ト聞ユルヲオハシマス<sup>若君</sup>同我鳥川此由ヲセキムハガレ  
 八直ヒツカハシケル  
 貞永式目「國司領家成敗不及關東河口ノ事」

人ノと云レハ「關東管領」ハ管領ノ條ヲ見ヨ

又鎌倉  
 管領ト云  
 云々

室町幕府時代相模國鎌倉ニ置キ東國ヲ統轄セシメ  
 職<sup>職</sup>政所<sup>政所</sup>評定所<sup>評定所</sup>引付<sup>引付</sup>河津所<sup>河津所</sup>侍所<sup>侍所</sup>等ヲ之ヲテ足利尊氏ノ次  
 子基氏此職ニ就キ子孫相傳キテ關東トシテ後ニ室町幕  
 府ニ如ク御所又ハ公方ト稱シ俗間ニ關東將軍ト稱シ其職事ヲ  
 管領ト稱スニ至リ然レテ上杉氏<sup>上杉氏</sup>管領トシテ又上杉氏一家ノ  
 世職トシ關東公方足利持氏ノ死後上杉氏代リテ關東トシテ  
 テ東國ノ政務ヲ執リ

鎌倉幕府  
 職

吉連川判鑑、從三位左兵衛督基氏、尊氏、次男、貞和五年十月

本平  
記三十三  
田善興自言「鎌倉」  
足利左馬督基氏  
管領

*[Faint handwritten text in vertical columns, mostly illegible]*

くんとてへハ 関東兵 (抄) 著 復

尺素往来 官自漢典 廿キ

関東三口語 末へハ云フ云フ語ベシ (可) 并並奴詞

他我身の上 (明哲) ハ 大脇差ノサシゴシ、小脇兵ハ 柳頭中  
目ノ照ルハ 鎌子杖、タマツカフ言葉サハ 関東兵ノ如ク  
ナリ (西女ノ女ナリ)

*[Faint handwritten text in vertical columns]*











北條義時武家執權多之時。安藤氏ヲ津輕ノ夷地ニ居ラシメテ  
有義人奥羽及渡島ノ蝦夷ニ備ヘ夷人ヲ管領セシム

太平記十四新田足利確執奏狀「中務卿親王ヲ東國ノ御一  
成ニ奉リ」日中行幸(後醍醐帝御作)代厄ノ御祭ノ見ル

臨陽師葛原也  
新田左兵衛義貞ヲ大將軍ニ定メテ國々大名トモテ添ヘラレセル

(四)室所幕府第一重職一稱ノ鎌倉幕府ノ執權江戸  
幕府老中如以初ノ執事ト稱セシヲ將軍義滿以後管領ト

改メ斯波氏細川氏畠山氏ノ三家代々之ニ補セララコシ三ノ一  
十稱セリ又別ノ鎌倉幕府置キテ關東ヲ鎮セシメラ

儀式月  
三官能ノ出  
付ル時其

(漢語ノ毛ト暗合ス)

廿一「毛」ハ動物ノ毛ニ通ス神代紀上ニ素戔嗚尊ノ御身ノ毛ヲ枝

キテ散ニシタマヘルガ種々ノ木ト成リテ葉ヲ記セリ沖繩ニテ毛ヲ  
ト云フ尚村草ノ條ヲ併セ見ヨ

(一)大地ニ生ル草木ノ別名  
古事記上九ノ子之一木昔事新傳神代古事記傳私記曰

一見十事記及日本新抄再刊續云古者謂木為介  
皇代紀十八年七月「以葉後國御木歌」御用ノ真

葉ハ松木ノ宣リ  
左傳昭公七年「食土之毛」注毛草也公羊傳宣公十二年

神代紀上  
二十一  
一

不毛之地注、不毛者、確不生五穀也。

賦役令、凡土毛、賦時、在田者、義解、謂土地之所生、皆為

毛也、集解、古語云、土毛、謂草木也、和

山字、注、上毛野、下毛野、上毛野、上毛野、草木野、義、ル、名、義

考、毛、ク、サ、リ、ヤリ、和字、通例、世、俗、木、ナ、キ、山、ヲ、イ、ハ、シ、ト、云、フ

(三) 稻ノ德、作毛、毛見、本毛、草毛、一毛作、二毛作、稻毛

姓氏録、上毛野朝臣、類人、沙石集、秋ノ毛、

上ヲ賜、ハ、リ、テ、下、ル

毛到

(一) 人、獸ノ、皮、骨、毛、生、元、細、ソ、ク、シ、解、ノ、如、キ、也、

(二) 髮、カ、ミ、ノ、ケ

(三) 鳥、羽、ノ、毛

神代化上、毛、ニ、モ、ト、イ、フ、鳥、傳、名、抄、六、八、鳥、體、毛、無、雨、古

介、一、鶴、ノ、毛、衣

(四) 細、ソ、ク、シ、テ、毛、如、キ、也、

毛、挑、ト、イ、フ、其、最、毛、絲、毛、ノ、車、カ、志、ウ、ハ、シ、ノ、毛、

(五) 絨、毛、ノ、器

保元、白河、殿、起、討、黒、革、威、ノ、鏡、ニ、同、ジ、毛、ノ、五、枚、胃

(六) 毛色ノ異名

空穂擊使、兵部丞、許馬ニ乘リテ堀ニ向キテ馬ノ毛申ヒタマヘリ

古文全大體者

毛を吹きて疵を求むト云フハ毛、中ニテ吹キテ海ヲ捜スト云フニテ

僅ル過チテ許サズ昔々乱ル意ナリ 韓非子大體篇、不吹毛而

求トニ批、不洗垢而空難知、漢書景十三王傳、今或

無罪為臣下所侵奪有司求疵答服其臣使護

其舌、後撰五、直キ木ニ曲ル枝ニアルモノヲ毛を吹キ

疵を云ふガハリナリ、轉ニテ人ノ過チヲ察カトシテ却テ疵ガ

身ノ過チヲアテハス、蛇ヲ出ス、ラ良ハル

大和故事、有クハ身体ニ、人ノ要ヲ知ヒテアテ、吟味ス

(二) 八都テ我ガ身ノ過チヲ終ル事アルニ、其時初マニ置キテ

思フニ、アテム是レ毛ヲ吹キテ疵ヲ求ムハ、カガハル

武烈紀、持摩談(玉置)ニ、敷サ(盛)シ、世尊イヒルケ

信之杖十六、木器、以テ盛ル器也、

万ニサ、家ニシテハ、竹ノ盛ル器也、段ノ草杖、旅ニシテハ、椎ノ葉

ニ盛ル、世尊イヒルケ

雜付紀、共器同盛

内廷儀式、銀器、漆器、第一合、木器、第一合、銅器、

(三) 物ニテ、種々ノ物ヲ入ル、器



其<sup>コト</sup>新<sup>ニ</sup> 材<sup>ノ</sup>草<sup>ノ</sup>子<sup>ノ</sup>九<sup>ノ</sup> 土<sup>ノ</sup> 其<sup>ノ</sup>名<sup>ノ</sup>石<sup>ノ</sup> け<sup>ニ</sup> 介<sup>ノ</sup>音<sup>ノ</sup> (其<sup>ノ</sup>音<sup>ノ</sup>)

夫木、廿三、雜、四、ウ、海、ヲ、ヒ、ツ、ノ、ケ、テ、汲、ミ、乾、サ、ム、時、ニ、ヤ、我、ガ

身、成、リ、モ、出、ツ、キ、<sup>カ</sup>櫛<sup>ノ</sup>竹<sup>ノ</sup> 麻<sup>ノ</sup>竹<sup>ノ</sup> 凡<sup>ノ</sup>竹<sup>ノ</sup> 四<sup>ノ</sup>竹<sup>ノ</sup>

後、撰<sup>ノ</sup>の、質<sup>ノ</sup>、其<sup>ノ</sup>、器<sup>ノ</sup>、盤<sup>ノ</sup>、出<sup>ノ</sup>、ラ、セ、テ、結<sup>ニ</sup>、ケ、ル、其<sup>ノ</sup>、名<sup>ノ</sup>、石<sup>ノ</sup>、竹<sup>ノ</sup>、<sup>今<sup>ノ</sup>、其<sup>ノ</sup>、器<sup>ノ</sup>、竹<sup>ノ</sup>、</sup>

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

什<sup>ノ</sup> 類<sup>ノ</sup>

け<sup>ニ</sup> 名<sup>ノ</sup> 二<sup>ノ</sup> 類<sup>ノ</sup> 一<sup>ノ</sup> け<sup>ニ</sup> 采<sup>ノ</sup> 經<sup>ノ</sup> 義<sup>ニ</sup> 日<sup>ノ</sup> 常<sup>ノ</sup> 之<sup>ノ</sup> 意<sup>ノ</sup> ナ<sup>ラ</sup> ム 二<sup>ノ</sup> 熟<sup>ノ</sup> の<sup>ノ</sup> 衣<sup>ノ</sup> ハ 常<sup>ノ</sup> の<sup>ノ</sup> 衣<sup>ノ</sup> ナ<sup>リ</sup>

常<sup>ノ</sup>、平<sup>ノ</sup>、生<sup>ノ</sup>、フ、ダ、ン、(公<sup>ノ</sup>又<sup>ノ</sup>晴<sup>ニ</sup>至<sup>ス</sup>) 多<sup>ク</sup>ハ、衣<sup>ニ</sup>云<sup>フ</sup>、熟<sup>ノ</sup>衣<sup>ノ</sup>ハ、不<sup>レ</sup>斷<sup>ス</sup>

着<sup>ノ</sup>服<sup>ナ</sup>リ、熟<sup>ノ</sup>居<sup>ト</sup>云<sup>フ</sup>ハ、常<sup>ノ</sup>居<sup>間</sup>ナ<sup>リ</sup>

論<sup>ノ</sup>語<sup>ノ</sup>、郷<sup>ノ</sup>堂<sup>ノ</sup>、意<sup>ノ</sup>、爲<sup>ノ</sup>、紅<sup>ノ</sup>、紫<sup>ノ</sup>、不<sup>レ</sup>以<sup>テ</sup>、爲<sup>ニ</sup>、熟<sup>ノ</sup>、服<sup>ニ</sup>、王<sup>ノ</sup>、肅<sup>ノ</sup>、注<sup>ノ</sup>、熟<sup>ノ</sup>、衣<sup>ノ</sup>、

常<sup>也</sup>、私<sup>ノ</sup>、服<sup>ニ</sup>、非<sup>レ</sup>、公<sup>ノ</sup>、會<sup>ノ</sup>、服<sup>ニ</sup>、也<sup>ニ</sup>

神<sup>ノ</sup> 典<sup>ノ</sup> 類<sup>ノ</sup>

大<sup>ノ</sup>鏡<sup>ノ</sup>、五<sup>ノ</sup>、伏<sup>ノ</sup>、籠<sup>ノ</sup>、お<sup>チ</sup>オ<sup>キ</sup>テ<sup>ハ</sup>、三<sup>ノ</sup>着<sup>タ</sup>マ<sup>ラ</sup>、御<sup>ノ</sup>衣<sup>ヲ</sup>、バ、暖<sup>ニ</sup>テ<sup>ソ</sup>

着<sup>セ</sup>テ<sup>テ</sup>、ソ<sup>リ</sup>ク<sup>マ</sup>マ<sup>ア</sup>

魚<sup>ノ</sup>名<sup>ノ</sup>抄<sup>ノ</sup>上<sup>ノ</sup>、瀬<sup>ノ</sup>見<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>小<sup>ノ</sup>川<sup>ノ</sup>、歌<sup>ヲ</sup>詠<sup>ミ</sup>タ<sup>ル</sup>ヲ、難<sup>ジ</sup>テ<sup>ハ</sup>、カ<sup>メ</sup>ウ<sup>ノ</sup>、重<sup>キ</sup>ヲ

バイミビカエ晴レノ會若レハ國王大臣御前ナドニテコソ詔マメ  
カニル事ニヨミタル無念ノ事也

執事

*[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]*

ハハレ 家司ハ家司ヨ延ヘテテテテ權ノ首リ 木國ヲ紀伊國 欽子タシ、さし

四時志シレ詩歌カ志カハカカ 裁カ末カ志カハカカ 例

(二)イハツカサ。親王攝關以下三位以上ノ家々ノ家務ヲ掌ル職ノ稱。

元ト家令カ家扶カ家從カ書史カ寺カヲ家令カト稱トシテシ後ニカコレヲ家司カト

下シ家司カトシ分ケシ四位カ五位カノ諸大夫カヲシテシ補カスカルカ家司カトシ其カ以下カヲシ下

家司ト稱トシテリ

廿落カ彦カ三カ四カ 衛カリカノカ督カノカ殿カノカハカレカレカ但カ馬カ守カ下カ野カ守カ

榮カ花カ初カ花カ 殿カノカハカレカレカサカレカ限カリカ加カ階カス

源カノカ夕カ歌カ三カ 御カ供カ人カモカサカフカバカサカリカケカリカ不カ便カナカルカヲカサカナカトカテカ 殿カニカキカ志カ玉カハ

シカニカ殿カニカ仕カラカルカ者カナカリカケカレカバカ失カリカテカ奇カリカトカ云カレ

(三) 鋪倉幕付ニテモ 政所ノ別上置令知家系 業主ナドニテ家日ノ稱  
エタリ

*[Faint handwritten text in vertical columns, mostly illegible]*

ハハシヤ 藝者

(二) 藝ニ堪能ル者

甲陽軍鑑

(三) 遊里

遊業トス(女ノ藝子ニ云ス)

者出本チ女トテ稱シ隨テ封中問ガ男トテ名取リ(古キ新喜原細

具ニ其名目見ユ) 後ニ男遊業ニ其名失セテ女藝者ヲ尊ニトトス

又江戸中ニ踊子ト云フ起リ土京ナルニ云シテコレヲ所

キ是等女遊業ノ者音曲歌ヲ舞テ遊興ニ云ル也 京坂ヲ藝

子酒奴歌好

十一

朝又奇物ヲ云フ事ナキ好キ者 能ク事ヲシタリ  
タマフ武藝ノ云ニ能ク古アトモ其心裁ナルエ  
弓矢ノ道ハオトサス藝者ノマウニシナシム

一月見花見又ハ藝云

*[Faint handwritten text in vertical columns, mostly illegible]*





宮女藤  
宮女藤  
宮女藤

太平記廿七 塩沼判官 藤政が鶴ヲ射ル 鶴實 傾城ヲ賜ハリタルハ  
面目ナレト云 平家ト 那波共一 官女 舟 乘リテ出ラレシ 大將軍(義経)  
矢面ニ道ニテ傾城ハセシヨ 津原ニシテ所ヲ 手名ニ相テ射サレ  
セト 謀ト存ニ候ハ

三 特ニテ遊女ノ稱 色ヲ以テ人ヲ溺ラスルニ是ニ同ジ 後ニ專ラ遊女ノ上  
等ナルモノ 稱トス 宇治拾遺 十三 廿四 昔一條 榎敷屋ニ或田泊リテハセシト  
臥シテ有ケルニ 書 藤 不 乃

太平記廿四 天龍寺建立 傾城田原 龜島ノ財ヲ其ハ 辰訓 往來四月  
傾城白拍子遊女初發 史記抄(文明)四四 太右衛門 傾城ノはて  
多ホトニ不調テ 亂ルノ 似 勢物語(實形) 異ハセシニ 知言ニテ 即時

壬 新レズアリワケルニ

東 佐 皇 母

10 根岸 委 びら や 製

ソウ

玉 爲 證 馬 也

證 和 本 在 於 此 證

ハ ン 有 耶 頭 經 以 證 明 也 證 和 本 在 於 此 證  
ハ ン 有 耶 頭 經 以 證 明 也 證 和 本 在 於 此 證  
ハ ン 有 耶 頭 經 以 證 明 也 證 和 本 在 於 此 證  
ハ ン 有 耶 頭 經 以 證 明 也 證 和 本 在 於 此 證

顯 ナルト 著 オフ 又 ハ マ カ ナ ル バ レ バ レ シ ヲ 又 見 ン  
セラ け セラ 中ニ

丙 蜻蛉日記 中 山 科 ミ 明 ケ ハ ナ ル ニ ゾ イ ト 見 ン 地 ス ハ

アレカ人カ オボエル 人 皆 後 ラ カシ 先 立 テ ナシ テ カ ス カ 歩 三 五 分

甲 更科日記 一 十 道 けん なる 又 サ キ ニ ト 夜 深 ヲ 出 テ シ カ バ

乙 枕草子 一 四 見 タ マ へ カ ル 見 エ ス ノ ア マ ル ラ ト 云 ヘ ハ 二 三

若木  
壬  
三九八

アハ誰のケをう三五ハハ

大鏡 花山院 漸るノ小テヨリ出デサセマヒケルニ有明ノ月イミビラ

明カリケルバ 東鑑 ニヨムイカハアルヘヤニト仰セラレタルヲ 花山院 天皇

枕草子ハ 二 高坪ニヨリクル大庭御 ハ 髪ハ所ナドモ

ナカナカ書ヨリ ハ けせうニ見エテ目映ケレト念レテ見ナドス

草子 ハ 一 ハ 草若キメ ハ 草若キメ ハ 草若キメ ハ 草若キメ

源ノ玉島 三ノ 一 ハ 源ノ玉島 三ノ 一

源ノ玉島 三ノ 一 ハ 源ノ玉島 三ノ 一

五色ニ云々 又 五色ニ云々 又 五色ニ云々 又 五色ニ云々 又

ケナ一加衣沙衣一持語迦沙曳 (Kasaya) 畧、薄布也

正色雜色ノ義 ハ 正色雜色ノ義 ハ 正色雜色ノ義 ハ 正色雜色ノ義

二僧ノ服 モクニシキ 本ノ原色 ハ 本ノ原色 ハ 本ノ原色

身自懸 ハ 身自懸 ハ 身自懸 ハ 身自懸

釋以要履 ハ 加衣沙衣云々 ハ 加衣沙衣云々

下方添衣 ハ 言道服也 ハ 言道服也

倭名抄十三 ハ 加衣沙衣 ハ 加衣沙衣 ハ 加衣沙衣

衣傳法衣 ハ 沙衣之服也 ハ 沙衣之服也

釋以要履 ハ 一曰僧伽梨 ハ 一曰僧伽梨

支那星 ハ 支那星 ハ 支那星 ハ 支那星



女ナドコレヲ買ヒテ良縁ヲ占ヒトシテ賣ル者ノ拾<sup>イデタ</sup>裝ハ赤キ<sup>ハカサ</sup>布衣<sup>クサ</sup>  
 ニ赤袴高ツカケ白帽子<sup>カカリ</sup>白布<sup>シラ</sup>ミタ<sup>ミタ</sup>秋<sup>アキ</sup>ヲ包<sup>ツク</sup>ミ<sup>ミ</sup>花ノ枝<sup>ハナノエ</sup>ヲツケタ  
 リトスア後<sup>ノチ</sup>ニ文ナテ田<sup>ノ</sup>直<sup>ニ</sup>依<sup>ル</sup>ニ米<sup>コメ</sup>ニ三粒入<sup>トリツク</sup>ル<sup>ク</sup>渡<sup>ワ</sup>レ<sup>ル</sup>望<sup>ノゾミ</sup>ム<sup>コト</sup>カセ  
 夫<sup>トシテ</sup>更<sup>ニ</sup>婦<sup>ノ</sup>事<sup>ヲ</sup>商<sup>メ</sup>喜<sup>ビ</sup>事<sup>ヲ</sup>トサ<sup>シ</sup>テ<sup>ハ</sup>祝<sup>言</sup>ヲ云<sup>フ</sup>ヒト<sup>リ</sup>此<sup>事</sup>元<sup>祿</sup>ノ以<sup>マテ</sup>  
 アリ<sup>シ</sup>ト云<sup>フ</sup>人<sup>ノ</sup>實<sup>文</sup>ノ留<sup>音</sup>若<sup>ク</sup>狂<sup>歌</sup>吐<sup>キ</sup>四<sup>閑</sup>田<sup>耕</sup>筆<sup>等</sup>也<sup>ト</sup>  
 佐<sup>夜</sup>中<sup>山</sup>集<sup>ノ</sup>童<sup>文</sup>一<sup>ハ</sup>けさう<sup>ウ</sup>文<sup>ヤ</sup>ヒテ<sup>タ</sup>タ<sup>ク</sup>思<sup>ヒ</sup>夫<sup>多</sup>ク<sup>スル</sup>續<sup>山</sup>井  
 (童<sup>文</sup>)<sup>ハ</sup>人<sup>ハ</sup>コレヲ<sup>恋</sup>ヒ<sup>テ</sup>ラム<sup>ケ</sup>さう<sup>ウ</sup>文<sup>ニ</sup>呼<sup>ブ</sup>人<sup>ヤ</sup>恋<sup>ハ</sup>川<sup>立</sup>懸<sup>想</sup>  
 文<sup>一</sup>

奇レト通ズ

けし<sup>形</sup>ニ<sup>一</sup>異<sup>ハ</sup>異<sup>ヲ</sup>活<sup>用</sup>セ<sup>シ</sup>ム<sup>一</sup>其<sup>條</sup>ヲ<sup>見</sup>レ<sup>ト</sup>怪<sup>レ</sup>ル<sup>一</sup>記<sup>本</sup>中<sup>ノ</sup>  
 取<sup>リ</sup>タル<sup>一</sup>當<sup>ハ</sup>事<sup>ナリ</sup>  
 (一) 當<sup>ニ</sup>異<sup>ナリ</sup>異<sup>ニ</sup>據<sup>ナリ</sup>  
 万<sup>十</sup>五<sup>三</sup>韓<sup>衣</sup>裾<sup>ヲ</sup>打<sup>交</sup>合<sup>ハ</sup>ネ<sup>ト</sup>ス<sup>ハ</sup>思<sup>ハ</sup>ル<sup>ニ</sup>バ<sup>吾</sup>カ<sup>思</sup>ハ<sup>ナ</sup>ク<sup>ニ</sup>  
 同<sup>十五</sup>五<sup>ヲ</sup>運<sup>ク</sup>ニ<sup>オ</sup>モ<sup>ホ</sup>ル<sup>カ</sup>モ<sup>然</sup>レ<sup>ト</sup>モ<sup>異</sup>情<sup>ヲ</sup>吾<sup>ガ</sup>思<sup>ハ</sup>ナ<sup>ク</sup>ニ  
 (三) 希<sup>有</sup>ナ<sup>リ</sup>変<sup>ナ</sup>リ<sup>怪</sup>ル<sup>一</sup>要<sup>シ</sup>ト<sup>賤</sup>ク<sup>シ</sup>  
 伊<sup>勢</sup>丹<sup>ノ</sup>昔<sup>若</sup>キ<sup>男</sup>ハ<sup>何</sup>カ<sup>事</sup>ナ<sup>リ</sup>ト<sup>モ</sup>思<sup>フ</sup>ル<sup>一</sup>  
 空<sup>徳</sup>花<sup>下</sup>下<sup>五</sup>ノ<sup>ハ</sup>レ<sup>シ</sup>物<sup>ニ</sup>タ<sup>マ</sup>ハ<sup>ス</sup>バ<sup>イ</sup>カ<sup>ニ</sup>ウ<sup>レ</sup>シ<sup>カ</sup>ラ<sup>ム</sup>  
 古<sup>車</sup>談<sup>一</sup>花<sup>山</sup>院<sup>御</sup>出<sup>立</sup>之<sup>時</sup>書<sup>キ</sup>出<sup>ス</sup>ル<sup>一</sup>天下<sup>騒</sup>  
 動<sup>有</sup>人<sup>申</sup>大<sup>分</sup>山<sup>殿</sup>  
 仰<sup>云</sup>ケ<sup>レ</sup>ラ<sup>ハ</sup>ア<sup>ラ</sup>シ<sup>ム</sup>能<sup>ク</sup>ホ<sup>メ</sup>ヨ<sup>ト</sup>



玉のまじり

二二六ハ

空復多原

五十一カク

けしき身事

ハツケケマ

ラジ吸ニ

モ沛徳

言カナシ

ナリ  
榮元月宴 同字今ハイガ 疾ク瓦ナムトミ思フ けしからぬイ

(三) 轉ジテ、要カカリ、アルマジキコトナリ (けしからぬニめらオノ界ナラシ

おぼえけあらオノ界ニテ おぼえけにト用ナルトト同ジ用法ナルカ)

源の浮舟ハ 遂ニ我が身ハけしからぬモマシ初ナリ又ニキナメリトイトド思フ

トコロニ 華花 初花 (ハナ) ソレミツケテモけしからぬ事ドモオデ来テ師及

イトド世ノ中スズロハニシク思シ 軟キケリ

秋草子ナシ けしからぬ 腰キタナクオハシケリナト云ヘ

(四) 又特ニテ、無理ナリ 不律ナリ 法ナリ 不律 何カけしからぬ侍テ道

理ナキ事ニモ侍ラハコソカラソ けしからぬ申シ侍 けしからぬ振舞

又物ニ侍ラハ 謡曲土蜘蛛 けしからぬ血ノ流シテ候 けしからぬ屋

雨 けしからぬ暮サシ 十訓抄尤、妻事候フ女心ハ けしからぬ二因リテ 10

けしからぬ暮サシ 十訓抄尤、妻事候フ女心ハ けしからぬ二因リテ 10

けしき 二葉色 (ニ) ハハヒ、キガレ、ミエ、アリサマ、ヤウス

後櫻の悲ハ、人ノ娘ニイトト思ヒテ通ニ侍リケル侍シキヲ見テ親ノ守リケレバ

秋草子ハ、あ、子生ハ千人ノ程過ケルマテサル けしきノナキ

竹取 ナホ物思ヘル けしきナリ

玉葉 四枚上、秋、けしきト世ナリニケリ 顔色

(三) 顔、ハハヒ、カノイロ、梅嫌、ハ好キニモ悲シキニモ

源の東屋ニ、ホ、シカシカナルト申シケルニ けしき、悲シクナリ又 顔色コト

ヒケスルニモ平治、光頼、冬内、衣又ツタヒ 竹取リナホニシテ

(三) 梅嫌、ハ好キニモ悲シキニモ 伊勢、ハあ、おほやサナリノ けしき、悲シクナリ

伊勢、ハあ、おほやサナリノ けしき、悲シクナリ 時、オノ共 申シケルハニ

伊勢、ハあ、おほやサナリノ けしき、悲シクナリ 申シケルハニ

伊勢、ハあ、おほやサナリノ けしき、悲シクナリ 申シケルハニ

伊勢、ハあ、おほやサナリノ けしき、悲シクナリ 申シケルハニ

伊勢、ハあ、おほやサナリノ けしき、悲シクナリ 申シケルハニ

伊勢、ハあ、おほやサナリノ けしき、悲シクナリ 申シケルハニ

源の少女  
時ニ從テ世ノ  
久遠ニ身事  
ハツケケマ  
ラジ吸ニ  
モ沛徳  
言カナシ

けしき

④

吾妻鏡 三三時永三年三月六日  
廿者同集 十の川邊口員 雅と云 沸けしき好子 主侍リケリ 日本  
(四) 油意 井井也 劇中 浦冠者 蒙沸き米道 車免許 熱申  
保元 光院 中謀 教雲 顯 祓禊 無双 深祕 法華 尤 神妙 之  
由 法華 色 所 候 也  
落之 淫 三 熱前 汗 反 參リテ 沸けしき 名 あり 六 シカレカ 付 せ せ せ  
成 五 之 卷 記 上 靜 意 思 熱 野 詣 右 持 川 佑 申 女 房 云 法 皇  
近 下 阿 比 仁 マ シ マ レ ケ 六 臣 下 マ 君 ノ 沸 衣 采 色 依 尼 湯 前  
カ ン ツ 干 呼 べ せ ぬ

時アノ白ヲ  
にち

此日旧曆  
六一ヤビニテ  
アリキ  
ましの  
見ル

ケレキ「下食」ハ陰陽師ノ言ニシテ云ルヘシ、天狗星ノ下界ニ移リテ

食ヲ求ムルニ意ナリト云フ

曆ニ云フ語、天狗星ノ出食ト云フ日ノ稱、六十一日ニ出食レ一歳ニ

六人食ニテ、下食ト云フ日ノ稱、コレニ意ル日ヲ下食日其日ノ一

定ノ時ヲ下食時ト云フ此時ニ髪ヲ洗ハバ髪落ツト云フ(鬼敵

頭ノ條ヲ見ヨ) 俗ニ 蜘蛛ニ類ヲ云フニルバ髪落ツト云フ 下食時 鬼

ト云フモ是レナリ

江家次第。追備後、主殿寮、供沸湯ニ註、雖當歳下

食猶供(古傳本)江家次第、二月、歳下食、其日注曆云、此日沐浴則

拾芥、下末、下食日註、自竹比中、計之、鬼敵頭而髪落故

揮也



續後林  
拍扇日  
九三三七

口遊陰陽門、於林抄上本、諸事言必布ニ下食且湯浴ノ誦  
文ヲ載セテアリ

曆例「**歲下食**」天狗星精、下界ニ下テ食ヲ求ル日也

曆材問答集「**歲下食**」是以者有**天狗星**其精也

是以曰**天狗出**食六十一日、食一歲ノ食也、有**下食時**別

尚書曆曰**下食時**者、**曆**其時、不思其日、沐髮種草木

思其時ニ**伊勢曆注**「さ、けしきハ云ニ年中ニ六日モアリ」下じき日

貞亨四年

ハ時ニ云リテ、髮ヲ剃ラズ、**沐浴**ヲ<sub>木ヲ</sub>修ラズ、  
其時、**カリ**テ前後少シモ、**苦**シカズ

トモシ「**曆例**」〔無定書〕ハ、天狗星ノ下ニ有

トモシ

虫

集

ハジレレレ 蜘蛛 下食時 虫 轉 (芒のケ) 此虫 齧 毛髪

糸ハケ落ツルニ起ル、**下食時**、**蜘蛛**ト云フ、**鬼**ト云フ、**病者**、**因**

其條ノ下、**下食**ノ條ヲ見、**土佐**薩摩ノ人、口語ニ「**ちや言**」ト別

ク此虫ハ、**けし**レノ聲、音ナリト云フ、**靜岡縣**ニハ、**鬼**ト云フ、**木製**

ノ毛、**枝**ヲ、**けし**レト云フモ是レト、**根原景時**ノ事ニ、**就**キテ云フ、**附**

**會**ナリハ、**ぢ**ハ、**けし**レノ條ヲ見、**見**マ

**虫**長サ一寸許、**似**テ、**狹**クシテ、**平**ニカサズ、**淡褐色**ニシテ、**薄**

**黑**キ斑アルモアリ、**脇**細長ク、**ニテ**、**左右十五對**アリ、**走**ルト疾シ、**床下**

ナド、**溼**地ニ、**棲**ミ、**夜**出デ、**ト**、**蟲**ナク、**捕**リ、**食**フ、**此**虫ニ、**頭**ヲ、**遠**ハ

ルニ、**髮**毛ケ落ツト云フ、**傳説**アリテ、**人**ニ、**嫌**ハル、**畏**ルニ、**けし**レ、**けし**レ、**け**

レ、又カクハラムレ。

多識の書（林羅山）「虫蝶計志計志」

存皇の功（寛永）「けちけちニトコネテテ姫カ免」

海録（出之改）又保山崎美成「伊澤辞海曰俗間。頭後人」

アノ腹腹ケテ錢ノ大カニ先ケケルヲケレニ。蝨ニレト云ラレバレシ虫

ノ事トセリ。サレト假名曆ニアル。けちきイソナリ先ト下食ト者

下食ト云ヘル鬼。蝨ニレト云ラヌナルハ漢土ニテ鬼頭ト云フ病アリ

サレバ俗説ノハレシ。けちきノ約リ先ト云レバレシ。今ノ假名曆ニ

アリ（竹島文）

（下ノ）  
（中ノ）  
（上ノ）

臺原

華ヤニ飾ル勝ノ意。感物ニ云

けち「華足」ハ一事者ト云ル。計志ノ事ヲ「華足」ト云フ也

（二）<sup>カク</sup>「牙齋」机ノト「時ノ曲」ハ「今云」ト云フ也

シ、如シハ云々。其意ハ三ツテ雲形ト云

源「希木」ハ「木末」ト云フ。今ノカキ

「鈴虫」三ツ「沈」ハ「沈香」ト云フ。机ニスエ

此景日記「甚」ハ「甚」ト云フ。此景壇ノ意ハ蘇芳ノけち

（三）<sup>カク</sup>「同」併「甚」ハ「甚」ト云フ。此景壇ノ意ハ蘇芳ノけち

（三）<sup>カク</sup>「同」併「甚」ハ「甚」ト云フ。此景壇ノ意ハ蘇芳ノけち

（三）<sup>カク</sup>「同」併「甚」ハ「甚」ト云フ。此景壇ノ意ハ蘇芳ノけち

（三）<sup>カク</sup>「同」併「甚」ハ「甚」ト云フ。此景壇ノ意ハ蘇芳ノけち

（三）<sup>カク</sup>「同」併「甚」ハ「甚」ト云フ。此景壇ノ意ハ蘇芳ノけち

△孟津抄  
机ノ意也  
藤手ノ控  
也  
物類稱呼  
四ノ供養  
江戸ニテハ  
ト云フ

横濱の浄土宗の修りたる例なり

後醍醐天皇中継しき一木敷寺に盛物ヲけそと終其器ハ  
くけしき一物敷箱中四供銀加賀ニけしき  
供ニなんり品ヲけそと之ヲ

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

後醍醐天皇中継した木履下駄

駄ハ 木履

下駄 下駄 一王の儀 足板ヲ足駄ト書クヨリ移レ

ルカハ 偏院ノ歩行ノ義ヨリ 兼ハ云フハ 變ニナルベシ

踏 踏皮ト云フ月ト云フ 此器僧侶ノ所用ニ始マレンカ然レモ

(一)ヒラアミタニ足駄ノ草ノ低キモノ 設也若也ハ太志

義経記ニ書山堂上武藏坊が類ニニクタリ物ヲ書キ

タリタリ片類ニあしたト書ク片類ニ書馬法師下駄

ニハクト書キテ 辨慶ハ平足駄トソナリニル類ヲ踏ノ

ト云起キモアガフスレト書キテ云ハ 若シタリト云ハ

(三)一木ヲ刻リテ此處ヲモ造 踏ニシタル履物ニ 踏けたはく

リけたゴメンけたセウリけた

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



同十七 卷太之久毛會アトアリヤト鳥鳥綱張一速一舊一之  
 詩經小雅黍苗篇正義蓋者疑詩禮記檀弓蓋有受  
 我厚之者正義蓋者意有謙退不敢指斥事雖不  
 疑亦云蓋也

傳訓葉ケダレ蓋性理群書補注不敢決辭ト云ハ

*(Faint bleed-through text from the reverse side)*

古事記傳

人身ま受  
 ナカカライカニ  
 契リオキ  
 空徳侯  
 其陰  
 院  
 けだもの  
 中ニソロ友  
 トシテ

けだもの 獸一毛之物ト云雷雷一殿之雷一手一之一後一

果一木一之一物一ト云或或一毛一腋一物一約一ト云凡凡一又一け一もの一

全身ニ毛生ト四足ニテ安ミ哺乳一産物一終一毛一屬一物一

四足 猿一四一手一ト云獸獸一ト云同同一物一ト云人人一家一ト云飼飼一フ一ケ一もの一

ト云家畜畜一割一神代紀上一鳥一獸一

重一極一作一神代紀上一若一生一及一畜一産一

(虎) 神代紀上一若一生一及一畜一産一

皇極紀一六一畜一大一神一詞一辭一也一

皇極紀一六一畜一大一神一詞一辭一也一

皇極紀一六一畜一大一神一詞一辭一也一

クナリ  
一  
〇

倭名抄六十九 獸ノ分毛乃畜ノ獸ノ毛乃

畜母也 牝ノ毛乃畜ノ父也 (トナルノ交互ノ誤ルカ)

トナリ 然レドモ 獸ノ音 混濁ニ相違ジカ

然リ 古今十九 古ハモ 漢ノカセルケ

ムニ地ニテ 皇極紀 無終之基

十草別 畜獸ノ馬牛羊 錦犬豕 亦畜トモ

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*

五津抄  
〇  
ハカケル也

けち 結一ハ結ノ異音 其者ヲ打終ス

七勝負ノ最後ノ決定ニ至ルベシ

二 圍碁ノ終ハリガタニ 隅々ナドノキマテ

けちヲサセト云フ 今ヨセト云フ是レナリ

ヲ取リ先手ニさせバ一目ツノ得ナルナリ

源 空蟬 四ノ碁ヲハテ、けちサオワリ

碁聖圍碁式(正沈) 半番過グルホトヨリ

テ結自昇ヲ取リテ敵ニ一手モ先手ヲ取ラセ

ツケテサス也 能クサセバ二十目ナトノ負

儀 碁目ヲサスヲけちサオト云フ 碁ノ

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*

天

花鳥紅精  
既三子結  
八子射  
勝三矢  
九事也

又本末關三音テ開目長4 駄目十別語也

(三) 賭<sup>ユ</sup>ニ勝負<sup>ユ</sup>リ定ル<sup>ル</sup>。云の<sup>結</sup>ニ云フ。

源の花宴<sup>ナ</sup>。右大殿ノ弓ノ<sup>ナ</sup>上達部<sup>ニ</sup>流子<sup>ノ</sup>多<sup>ク</sup>集<sup>ム</sup>ヘ

タマヒテ<sup>ニ</sup>取<sup>ル</sup>ノ<sup>結</sup>ニ<sup>ナ</sup>射止<sup>ム</sup>也

實方集<sup>ニ</sup>弓ノ<sup>ナ</sup>射止<sup>ム</sup>ニ<sup>ナ</sup>定<sup>ル</sup>リカ<sup>ル</sup>ヤ

甘澤塩草<sup>ニ</sup>十七<sup>ニ</sup>弓部<sup>ニ</sup>弓ノ<sup>ナ</sup>勝<sup>リ</sup>也

俵割<sup>ニ</sup>架<sup>カ</sup>ケ<sup>テ</sup>流<sup>ニ</sup>矢<sup>ヲ</sup>下<sup>ニ</sup>賭<sup>ニ</sup>弓<sup>ニ</sup>ニ<sup>ナ</sup>射<sup>止</sup>ム<sup>也</sup>其名ノ<sup>ナ</sup>ため

た<sup>ハ</sup>庄<sup>ト</sup>モ<sup>チ</sup>ち<sup>ト</sup>花<sup>ト</sup>モ<sup>ト</sup>亦<sup>モ</sup>同<sup>ノ</sup>字<sup>也</sup>

ハッハ一結改

(二) 結番ヲ<sup>ナ</sup>改<sup>ム</sup>ル<sup>也</sup>

親長卿記<sup>ニ</sup>文明六年九月三十日<sup>ニ</sup>明日<sup>ノ</sup>清<sup>ノ</sup>結改<sup>ニ</sup>云<sup>フ</sup>予<sup>ハ</sup>為<sup>シ</sup>一番

自番<sup>ニ</sup>可<sup>ク</sup>相<sup>合</sup>フ

(三) 揚<sup>ニ</sup>弓<sup>ヲ</sup>讀<sup>ム</sup>組<sup>ヲ</sup>カ<sup>ケ</sup>テ<sup>テ</sup>勝<sup>ヲ</sup>決<sup>ス</sup>ル<sup>也</sup>五度<sup>ツ</sup>ニ<sup>テ</sup>組<sup>ト</sup>合<sup>フ</sup>改<sup>ム</sup>レ

ハ云<sup>フ</sup>陰曆五月九月ノ廿五日<sup>ニ</sup>行<sup>ハ</sup>手<sup>ヲ</sup>練<sup>リ</sup>堂<sup>ニ</sup>集<sup>リ</sup>テ<sup>テ</sup>競<sup>リ</sup>一<sup>ノ</sup>度<sup>ニ</sup>矢

二本<sup>ツ</sup>ニ<sup>テ</sup>百<sup>ノ</sup>矢<sup>ヲ</sup>百<sup>ノ</sup>年<sup>ト</sup>ニ<sup>テ</sup>詠<sup>リ</sup>テ<sup>テ</sup>お<sup>ハ</sup>シ<sup>テ</sup>表<sup>ス</sup>矢<sup>ノ</sup>数<sup>ニ</sup>二百<sup>本</sup>中<sup>ル</sup>

者<sup>ノ</sup>其<sup>ノ</sup>数<sup>ヲ</sup>揭<sup>ス</sup>示<sup>ス</sup>五<sup>十</sup>本<sup>以</sup>上<sup>ニ</sup>朱<sup>ヲ</sup>書<sup>ス</sup>百<sup>本</sup>以<sup>上</sup>ニ<sup>テ</sup>況<sup>キ</sup>百<sup>五</sup>十

本<sup>以</sup>上<sup>ニ</sup>金<sup>ノ</sup>具<sup>ヲ</sup>百<sup>ノ</sup>本<sup>以</sup>上<sup>ニ</sup>大<sup>ノ</sup>金<sup>ノ</sup>具<sup>ヲ</sup>リ<sup>テ</sup>賭<sup>物</sup>ニ<sup>ハ</sup>一<sup>ノ</sup>銭<sup>ヲ</sup>紅<sup>白</sup>ノ<sup>ハ</sup>比<sup>シ</sup>

色<sup>ノ</sup>コ<sup>ロ</sup>コ<sup>ロ</sup>字<sup>ト</sup>テ<sup>テ</sup>後<sup>ニ</sup>素<sup>字</sup>ト<sup>テ</sup>禪<sup>錢</sup>ヲ<sup>用</sup>井<sup>ト</sup>云<sup>フ</sup>(近<sup>代</sup>世

事談三 温知三十七

卷三

(一) 結界ノ種類ニ分テ  
一 僧尼ノ結界  
二 僧尼ノ外ノ結界  
三 僧尼ノ外ノ結界  
四 僧尼ノ外ノ結界  
五 僧尼ノ外ノ結界  
六 僧尼ノ外ノ結界  
七 僧尼ノ外ノ結界  
八 僧尼ノ外ノ結界  
九 僧尼ノ外ノ結界  
十 僧尼ノ外ノ結界

ツツカハ 結界

(一) 律法ニ依テ僧尼ノ界外ノ結界ノ種類ニ分テ  
一 僧尼ノ界外ノ結界  
二 僧尼ノ界外ノ結界  
三 僧尼ノ界外ノ結界  
四 僧尼ノ界外ノ結界  
五 僧尼ノ界外ノ結界  
六 僧尼ノ界外ノ結界  
七 僧尼ノ界外ノ結界  
八 僧尼ノ界外ノ結界  
九 僧尼ノ界外ノ結界  
十 僧尼ノ界外ノ結界

地ノ結界地ニテ律時、高野山比叡山ナド聖地トシテ女子、  
及至山スルヲ禁ズルヲ女人ノ結界地トシテ律時、  
及至山スルヲ禁ズルヲ女人ノ結界地トシテ律時、

釋公ニ要見、結界三種、攝衣界、攝食界、攝僧界、  
吾妻鏡、一治承四年十月十八日、軍兵等以高野山結界之地、  
為往來路之間、狼狽措不可斷絶、(伊豆山権現、境内ナリ)

(三) 轉ジテスル内外ノ別、又ハ禁制スルヲ以テ、  
界佛堂中ノ内陸外陣ノ界ナドニ設ケオク木柵ナドニテ、  
里結界ノ條ヲ仰テ見ヨ

里結界ノ條ヲ仰テ見ヨ

里結界ノ條ヲ仰テ見ヨ

里結界ノ條ヲ仰テ見ヨ

里結界ノ條ヲ仰テ見ヨ

里結界ノ條ヲ仰テ見ヨ

里結界ノ條ヲ仰テ見ヨ

里結界ノ條ヲ仰テ見ヨ

里結界ノ條ヲ仰テ見ヨ

里結界ノ條ヲ仰テ見ヨ

里結界ノ條ヲ仰テ見ヨ



田舎時(新編) (田舎時)

野村胡堂、内野大軒、保元三、徳川木野、(一)

(二) 徳川武家、内野大軒、保元三、徳川木野、(一)

徳川武家、内野大軒、保元三、徳川木野、(一)

徳川武家、内野大軒、保元三、徳川木野、(一)

徳川武家、内野大軒、保元三、徳川木野、(一)

徳川武家、内野大軒、保元三、徳川木野、(一)

徳川武家、内野大軒、保元三、徳川木野、(一)

徳川武家、内野大軒、保元三、徳川木野、(一)

徳川武家、内野大軒、保元三、徳川木野、(一)

徳川武家、内野大軒、保元三、徳川木野、(一)

徳川武家

結構

作り手

(一) 山本、ヒカサスル、組、タツル、シツラフル、

白氏文集、廿九、疏、教、生、入、意、結、構、得、世、宜、

後漢書、班固傳、結構、文、章、終、以、誼、諫、

吾妻鏡、三十三、嘉禎四年八月十九日、法雲、禪、渡、物、全、流、

結構異例

吾妻鏡、八、文治四年二月廿日、所、象、信、房、

(二) クハタニ、モクロミ、計、畫、

自身可渡海之音、殊、結構、(鬼、界、島、

平家、二、西光、如、花、ソレハ、法、皇、山、攻、ソ、レ、ル、ベ、キ、御、結、構、ハ、

(三) 結構、シ、ハ、テ、好、ク、出、来、タ、リ、ト、云、フ、事、是、ヨ、リ、轉、シ、テ、

美濃、精、巧、

勝、レ、タ、

心ニ結  
構ニシテ

吾妻鏡





妖怪

花ヲサニテ御遊ヒノヨリニ

新録古今の御説、比叡ノ山ニ方分キテ、ハブリ衣ニケル等

侍ルニ敵ノ方ニ女良衣ヲ作リタリケルヲ

蜻蛉日記中ニ、紙屋低書サセテ、障子又ニテサケリホニケルヲ

Vertical columns of faint handwritten text on the right page.

怪鳥六、象鳥、夜眼、花天、鶴、怪、鶴、怪、鶴

和免、鼻、新、秋、身、三、鳴、キ、我、ノ、故、ニ、怪、下、ニ、フ、リ、雨、雅、怪、鶴

晝、伏、夜、行、鳴、以、為、怪、者、也、唐、韻、三、鶴、怪、鳥、也、ナ、ド、アリ

鶴、鳴、ク、ラ、凶、兆、ト、ス、怪、鳥、ト、云、解、シ、テ、也、ナ、リ

怪、鳥、ト、云、鳥、怪、ト、ス、鳥、ト、云、怪、ト、云、ト、重、テ、申、サ、テ、意、ヲ

成、以、長、記、十、六、三、位、入、道、等、其、藝、ト、云、レ、ト、怪、鳥、カ、変、化、カ、目、ニ、顯

化、名、者、也、以、武、士、射、サ、ス、ベ、キ、也、(鶴、ナ、リ)ト、云、テ、意、ヲ、示、ス、人、

太平、記、其、監、治、判、官、誤、記、鶴、ト、云、テ、怪、鳥、ト、云、テ、夜、夜

鳴、キ、老、鳥、ト、云、テ、ハ、子、彼、國、ノ、内、ニ、サ、セ、人、ノ、言、ヒ、リ、ス、ト、云、テ、

了、テ、カ、ク、深、キ、里、ノ、人、離、レ、ス、コ、ク

Vertical columns of handwritten text on the left page, including the title '妖怪' at the top.



牡丹花 初花 四ノ 笑 眉 開ケサセタマハバ見奉ル人々モけおけ子  
アハレト見奉ル

(三) 終ジテマコトニゾノ如ク。實ニ實ニ實ニ

竹取 げ子。た。た。人。ハ。ア。ラ。サ。リ。ケ。リ。ト。オ。ボ。シ。テ

土佐正月十日此歌佳シトハアラモトけ子ト思ヒテ

源一 桐壺 五ノ 暇 十ノ 湯前ツリニ人ノ御心ヲツクシタマフモ

げ子コトワリト見エタリ同ノ夢ノ浮極 十ノ 僧都モけ子トウツキ

古今ノ恋 五ノ 貞女キニソノげ子偽リハナカリケレ忘ル方ノツキ

著聞集十六イカニカカル無実ヲげ子け子ト宣フ

和苑

七尺、廣一尺八寸

狭布ノ義

狭布ノ狭布

けふ一狭布ハ狭布約(少輒セシ)狭布ノ狭布狭布

細布ト云フ音訓及舉ノ又選遺 又布婦都ヨリ産ス

故ノ名ナリト云フ詠アト陸奥國ニ懸布名ナレ

幅ヲ狭ニ織リ成セル布古ハ陸奥國ヨリ工員ガ名調布ナリ

下着ニ用ナリト見エ替狭布レハ和歌ニ胸合ハズ又ハはく

ニ合フナド詠リ類聚ニ込格ハ大同五年太政官符

狭布上層云々夫調席金刺狭布至浪人特准廣布云々

散木集夏ノ如ク花ノ垣根ナリケリ山賊ノはつき晒ラスケ

ふト見ツレハ和苑ノ咲ケル垣根ハ少女ガ誰ガタメ晒ラス

の

細布ノ義  
けふの狭布  
布ノ義

~~長~~  
~~送~~

待掛邊の事

夫木三十三「思へた、けのさめの、麻布、  
見又胸ノ苦レシサ

堀河百有恋「イレフニメけのさめの、  
テモナホ層の鏡カヌテ朝カナ  
吾妻鏡、九文治五年九月十七日、  
赤婦細布二テ端

*(Faint bleed-through text from the reverse side)*

✓

けふ 今日(後訓) けふ 今日ヲシテ此日ノ義也トケトヒト

ト通ガリ(古事記)下(名基)ニ「許存コトハアル」許存九  
ハシトモ云フ)今朝、昨日ノふリ(きふ)ノ語原ヲ見ヨ今朝

此朝(累轉)後訓 夜ノ夜間ノ累ナト同ジク今日  
朝ノ意ナリ沖鏡ニテ今朝ヲあユラト云ヒ今朝ヲあユラめまト

ト云フ  
此日、今日、今日、今日、今日

古事記(下(雄略)九)初命モカモ酒ニツケラレ  
万十四「逢フ」難シ家布ニシアラズハ

朝日万二十「家布」日ヤ出テ、マカラム









同下才  
十七、  
勤脇士  
之廿五

源三十七、欽此一、阿弥陀供、サレド、菩薩、各、白檀、  
造リ、夫、ナリタル

六、雷雲異記、中、第三十六、聖武太上天皇、世、奈良、京、下、乞  
野寺、金堂、東、脇、土、観音、之、頂、无、故、断、落、也、

三、用明紀、二年四月、南、瀬、坂、田、寺、木、丈、六、佛、像、  
二、孝、徳、紀、白、雉、元、年、十、月、丈、六、緋、像、  
一、庭、訓、往、来、の、月、脇、仕、

一、續、紀、十、三、天、平、九、年、三、月、釋、迦、佛、像、一、軀、  
一、軀、挾、侍、菩、薩、二、

けはふ 外法ハ内典外典

(一) 併教、其、教、義、ノ、外、修、法、ヲ、云、フ、也、此、法、ヲ、各、ヒ、テ、受、ク、カ、ラ

ガ、果、報、ヲ、強、ヒ、テ、併、祈、リ、テ、得、ル、ヲ、一、成、就、ト、云、フ

今、昔、也、外、法、ノ、業、ハ、益、ナ、シ、ト、テ、羅、漢、ノ、所、オ、ハ、シ、テ、出、家、シ、ク、マ、ヒ、テ

内、法、ヲ、習、得、ト、侍、ヘ、テ、名、ヲ、ハ、シ、能、樹、喜、ヲ、得、レ、申、ス

盛、衰、説、一、清、盛、行、化、天、一、實、ニ、テ、外、法、成、就、ノ、者、子、孫

ニ、傳、ハ、ス、ト、云、フ、モ、ラ、レ、  
律、訓、集、上、卷、法、云、云、

△此術、陰、陽、師、ガ、支、那、ノ、道、家、ノ、傳、ハ、流、モ、ラ、オ、ホ、シ、ク、

一、出、典、ノ、續、夷、記、志、ヲ、見、テ、佛、家、ヨリ、外、法、ヲ、得、ル、者、ハ、  
ヲ、モ、テ、  
行、フ、者、ヲ、外、法、達、ト、云、フ

ヲ、モ、テ、  
行、フ、者、ヲ、外、法、達、ト、云、フ



鬮  
鬮  
鬮  
鬮

僧トシテ鬮化カズ大禪月律ヨリ見ル外法ニ用ケル鬮

鬮ハ鬮字ニ異ナル形トモナリ擇<sup>セ</sup>外法頭外法也トモナリ

増鏡九北野の雪西園寺太政大臣公相蒙ス一<sup>ニ</sup>濟美草ノ夜<sup>ニ</sup>決

半程<sup>ニ</sup>御目ノオシマレバ外法トヤヤテルニカカル生育ノ要ル

續夷國志四<sup>ニ</sup>術者童男ヲ捕ヘテ食ヲ與ヘズシテ死セシメ其<sup>ノ</sup>頭ヲ

收<sup>メ</sup>鬮鬮神ト名ツテ魂ヲト<sup>ク</sup>テ物言ハセ人ノ言凶ヨクト見ユ<sup>ニ</sup>大

神<sup>ノ</sup>條ヲ見ヨ<sup>ニ</sup>外法<sup>ノ</sup>事<sup>ヲ</sup>見ル<sup>ニ</sup>外法<sup>ノ</sup>條<sup>ヲ</sup>見ル<sup>ニ</sup>外法<sup>ノ</sup>條<sup>ヲ</sup>見ル<sup>ニ</sup>

又外法也トモ

三人ノ頭ノ生得ニ異形ナル者外法ヲ修<sup>メ</sup>ル者此鬮鬮用カレトモナリ

巫<sup>ノ</sup>子<sup>ト</sup>ナトノ口<sup>ノ</sup>奇<sup>ニ</sup>タルニモ用カレトモ<sup>ニ</sup>外法<sup>ノ</sup>條<sup>ヲ</sup>見ヨ

慶長見聞集ハ壽庵トモナリ<sup>ニ</sup>治<sup>メ</sup>始<sup>メ</sup>ニツキテ<sup>ハ</sup>或人評ニテ

世ニ色々ノ術治アリラ<sup>ハ</sup>けほ<sup>ウ</sup>がら<sup>ハ</sup>こ<sup>シ</sup>る<sup>ハ</sup>併<sup>ト</sup>ト<sup>ク</sup>テ<sup>ハ</sup>物ヲ持<sup>テ</sup>又<sup>ハ</sup>奇

特<sup>ニ</sup>云<sup>フ</sup>ト<sup>カ</sup>ヤ<sup>ハ</sup>山<sup>ノ</sup>村<sup>ノ</sup>中<sup>ニ</sup>見<sup>ル</sup>

屠龍工<sup>ノ</sup>隨<sup>テ</sup>第一<sup>ノ</sup>女<sup>ノ</sup>永<sup>ニ</sup>外法<sup>ノ</sup>カ<sup>ハ</sup>ト<sup>ク</sup>テ<sup>ハ</sup>者<sup>アリ</sup>俗<sup>ニ</sup>さい<sup>ハ</sup>樞<sup>也</sup>また<sup>ト</sup>

云<sup>フ</sup>鬮<sup>ノ</sup>形<sup>ノ</sup>人<sup>ノ</sup>アレバ<sup>ハ</sup>其人<sup>ノ</sup>財<sup>ヲ</sup>寶<sup>ヲ</sup>贈<sup>リ</sup>テ<sup>ハ</sup>會<sup>ハ</sup>ル<sup>ニ</sup>其<sup>ノ</sup>鬮<sup>ヲ</sup>懷<sup>ク</sup>

中<sup>ニ</sup>隱<sup>シ</sup>持<sup>テ</sup>人<sup>ノ</sup>心<sup>ノ</sup>内<sup>ニ</sup>思<sup>フ</sup>事<sup>ヲ</sup>彼<sup>ノ</sup>敵<sup>ノ</sup>患<sup>ヲ</sup>言<sup>ヒ</sup>知<sup>ラ</sup>ル<sup>ニ</sup>ナリ

云<sup>フ</sup>昔<sup>アリ</sup>大臣<sup>ハ</sup>蒙<sup>ゼ</sup>ゼ<sup>シ</sup>時<sup>首<sup>ヲ</sup>人<sup>ノ</sup>造<sup>ル</sup>ニ<sup>シ</sup>事<sup>アリ</sup>其<sup>ノ</sup>大臣<sup>外法</sup>也</sup>

たま<sup>ナ</sup>リ<sup>ケ</sup>リ<sup>ト</sup>

嬉遊笑覧ハ龍宮船云フ草子ノ詠事ヲ蘇セラ如女推テル者  
一寸五分許ノ佛像ハ猫頭モ云フキ干固マリ光物ヲ云フ異相ノ人  
ノ生キオカ時幼少ニ降降首ヲ以テ其ノ往來如年ナリ中埋ニ置  
ハ福髻ナリトアリ

後訓彙中偏ハはふかしウノ杜首ヲモテ出盤ヲ対ス也外法頭ノ

義ナルベシ縁夷聖志ニテヲ福髻神也ト云ヘリ縣少懐中ニ云

ノ後併ニ同類ナレシ

三天津傳 福祿壽ノ像ヲ因テニ其頭ニ長

バ日ノミシテ福壽ノ神名トス 大津給竹節元唄「ばいほふ

千ヨコ千ヨコ 桃ノ子ノ葉

終世傳  
ナカッラ

ハマン 華鬘ハ髮ノ梵名也蘇摩那(首飾表)ヲ畧シテ

曼トシ彫ヲカヘタル者華鬘ト昂チ梵漢双舉ノ語ニテ(織

梅禪定ノ類)柳頭ノ祖庭事苑西域記云國中人物首

冠ニ華鬘ト身飾ト云梵名云俱蘇摩手此云花云多用蘇

摩手那花行列結之以為長貫無同男女貴賤皆以之壯嚴

佛前ニ懸ハル者壯嚴ノ具金屬ニテ造レル扁平ノ輪

ニ造花ヲ垂ルノ綴リヲ

天壽十九年四月

天壽勝宗七年

圖書寮云最勝會佛器一花鬘代三十枚

後名抄十三 伽藍具花籃  
 吾妻鏡四十七 正嘉元年十月二十 堂中川前每懸彩幡草  
 若安

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

けり

蹴鞠

庭上人 数人

草履

クエマリ 貴人、出戴 鞠穿キテ 鞠ヲ且蹴上ケ且承ケテ也 活  
 チレノ又 蹴レリ 鞠 庭ノ 蹴レニテニ 枚ヲ中ニ 紹リテ 徑七八  
 寸内ニ 空車ヲ 滿シテ 輕ク空ニテナルコトヲ行フ式 種々トシテ 普  
 通ナル 庭上ニ 場ヲ設ケ 鞠士並又 懸リト云フ方 数間 竹  
 圍トシテ 南北隔シ 松ヲ植ヒ 東ニ 櫻トシテ 東南極 西南極 西北ニ  
 松ヲ植ヒ 又ハ六人 八人 此場内ニ 立ケテ 鞠ヲ 蹴合フナリ  
 此技支那ヨリ傳レテ 古ハヨリテ 宗徳天皇ノ此ノ人々 御言  
 々 藤原成通 練道ニテ 蹴人ト稱シ 其子孫 公家衆ニ 難波  
 家 飛鳥井ノ家ト稱シテ 数ト世 此技ノ 師トシテ 家ヲキ

四本 櫻  
 トキ  
 蹴鞠

蹴鞠

近代世書註ノ三ニ京都ノ西洞院、陳外郎杏林ト云々者、鞠ニ  
手練シテ種々曲ヲ蹴テ是レヨリ地下ノ者モコレヲ崇ヘリ外郎  
次ト云フトアリ

マレニ

クニナリ

本朝月令  
五月、國史  
云大略元外  
五月五日、奉  
蹴鞠金

丙 傳名坊四十七蹴鞠、傳云、彈基賦序云、漢成帝好蹴鞠、末

利古由下學集、能藝、蹴鞠

中 萱素抄、一鞠或譜、田明天皇、崇寧寺ニ居リ、蹴リ

甲 皇極紀、三年正月、中臣鎌子預、大兄於法興寺樹樹

之下、打鞠之侶、而候、杖鞋隨、毬服落、取置、堂中、前腕

恭奉、乙、鏡集、毬ケマリ

丙 西宮池、跡時ハ蹴鞠、延喜、三年三月二十日、御仁壽殿、召

殿上人云、今蹴鞠

紫衣、殿上花見、一品宮云、殿上人、朝冬、參り、蹴、オケケ

ニ、小弓射、オカシ、蹴、ニアリ、同根合、教、成、三人々々参リテ

オケケ、ナト、ア、バ、セ、タ、マ、ヒ、シ、ナリ



享連二年晴之沖鞠之記、沖鞠、彌生ノ下、七日、事ナリ云ニ  
式部卿ノ皇子今日、沖鞠、ミタマシ

尺素往來、近日於禁中可有蹴鞠御會候、與之度、故  
莊嚴殿候、良櫻、櫻掛、榎、乾松、各擇、奇木、怪株、社

多栽候、  
吾妻鏡、其、將仁、十三、建長五年二月一日、於沖所、鞠、湯、無、覽、童、舞

*(Faint bleed-through text from the reverse side)*

ナリ名ノ華書、能名、海、書、ト、  
ナリ名ノ華書、能名、海、書、ト、

けみ、  
假名、  
實名、  
三、  
源、  
氏、  
三、  
大、  
將、  
軍、  
誰、  
人、  
三、  
カ、  
レ、  
ス、  
一、  
源、  
九、  
郎、  
義、  
經、  
名、  
名、  
一、

源氏、  
三、  
大、  
將、  
軍、  
誰、  
人、  
三、  
カ、  
レ、  
ス、  
一、  
源、  
九、  
郎、  
義、  
經、  
名、  
名、  
一、

源氏、  
三、  
大、  
將、  
軍、  
誰、  
人、  
三、  
カ、  
レ、  
ス、  
一、  
源、  
九、  
郎、  
義、  
經、  
名、  
名、  
一、

源氏、  
三、  
大、  
將、  
軍、  
誰、  
人、  
三、  
カ、  
レ、  
ス、  
一、  
源、  
九、  
郎、  
義、  
經、  
名、  
名、  
一、

源氏、  
三、  
大、  
將、  
軍、  
誰、  
人、  
三、  
カ、  
レ、  
ス、  
一、  
源、  
九、  
郎、  
義、  
經、  
名、  
名、  
一、

源氏、  
三、  
大、  
將、  
軍、  
誰、  
人、  
三、  
カ、  
レ、  
ス、  
一、  
源、  
九、  
郎、  
義、  
經、  
名、  
名、  
一、

源氏、  
三、  
大、  
將、  
軍、  
誰、  
人、  
三、  
カ、  
レ、  
ス、  
一、  
源、  
九、  
郎、  
義、  
經、  
名、  
名、  
一、

海  
海

海  
海

一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、  
 十一、  
 十二、

一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、  
 十一、  
 十二、

一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、  
 十一、  
 十二、

老子第一章「道可道也，非名也。夫亦名之也夫。無名天地始，有名萬物之母。此兩者同出而異名，同謂之玄。玄之又玄，衆妙之門。」

此史、手烈傳、好談古、能言名理、以玄學、知名

字典、理之微妙者為玄、又深也。老子、學之玄學、云云

玄、深也。黃、大無色也。黃、理之微也。

玄、深也。黃、大無色也。黃、理之微也。

玄、深也。黃、大無色也。黃、理之微也。

玄、深也。黃、大無色也。黃、理之微也。

玄、深也。黃、大無色也。黃、理之微也。

玄、深也。黃、大無色也。黃、理之微也。

玄、深也。黃、大無色也。黃、理之微也。

玄、深也。黃、大無色也。黃、理之微也。

玄、深也。黃、大無色也。黃、理之微也。

玄、深也。黃、大無色也。黃、理之微也。

歌袋一  
 贈長明  
 一云一云  
 迷玄詞  
 ニアテシ姿  
 二見ニ双景  
 三某ナレシ

録字箋、唐千載而女君又五百早而白又五百早而  
去、玄字ヲ常ニ思クハクト呼フテ法師聖賢者ノ名ニ玄元源

醒睡箋(元和)三不文字、永玄トニテ禪門アリ人、平ヲ、そち、  
名ハ玄ハ、おアテラテ、玄トシケルカトス、イヤ、エラケルト云ヒ、知  
音スル者、聞侍ヘテ、笑止ニ思ヒ、此後、けんヲ問ハバ、又云、ト云ヘ、  
合點々々、業如ク、けんヲ問フ時、モ云、ト云ヘ、

場ルリ

法原のぬぬ草(元符) 坊主ノ業ヲ言フ、復里ノ言葉

ナリ是レハ近年、皇南者坊主、大方と云、けんヲ付クルナレト、カク云フナレ

皇國名、皇國傳ニ官醫曲直、漸玄報、其門人皆  
玄ノ字ヲ用エ、末流別支、終ニ海内ニ遠ク、今ニ云、ニテ、  
名玄字ヲ稱ス、其盛ヲ、江戶ニ歿ス、年、十三

首子臣  
道ノ義  
注、權  
変也

けん 權ニ權ヲ、假効、コト、官權官ト云フモ是也

臨機應變ニ行フ手段、正ニ道ヘドモ成功ニ得者スル行為

佛教ニ云フ方便ノ如シ、コレヲ權道ト云フ、權宜ノ云モ、

易經、擊辭下傳、イキル、行權、註、權、及經而合道

者也、子車、離婁、上、象、注、權者

後漢馮衍傳、注、於正道雖違逆而事有成功者

謂之權ニ、韓詩外傳、二、變謂之權

申、崔寔傳、注、權、謂、變也

諸國(以)林(林)諸國  
諸國(以)林(林)諸國  
諸國(以)林(林)諸國

録字箋、鹿千載而女君又五百早而白又五百早而

玄、玄字ヲ常、黒玄ト味フ法師野南者ノ名ニ玄元源

二字ヲク、口ニ味フ時ニムカ、玄ト元、又五也ト源ト言ニカクナリ

はた秦、在在毛音ナドモ同ジ(玄ヲ名ニクルハ前項ノ出玄)

醒睡爰(元和三不文字) 義ニ據ルナリ

活原ノ水ノ草(元禱)上、坊主ノ事ヲ玄ト云ルハ彼里ノ言葉

ナリ是レト近年、聖南者坊主大方ト云ケンヲ付クルナド、カク云フナリ

ハシ(げん)ト云ク律ヲ併セ見ヨ

けん 權ニ權ヲ 作致 官權官ト云フモ是也

臨機應變、行ノ手段、正ニ道ヘトモ成功ニ得着スル行為

佛教ニ云ク方便ノ如シ、コレヲ權道ト云フ、權宜ノ事ナリ

易經、擊辭下傳、記共以行權、註、權、及經而合以道

者也、子車、離妻、上、象、注、權者

後漢、馮衍傳、注、於正道雖違逆而事有成功者

謂之權、韓詩外傳、二、變謂之權

申、崔寔傳、注、權、謂變也

首子臣  
道、義  
注、權  
變也

けん長崎一八拳相撲ト云フガ成語ナリ此技實ニ永年間に支那  
 人長崎ニ傳ヘタモノニテ其他ニ傳ヒタリ元禄ノ頃ナレト云フ  
 呼ア所ノ数字皆支那音ナリ  
 美手相撲。遊技ノ名酒宴ノ席上ニテ行フ遊技ニテ負ケ  
 免者ニ酒ヲ飲マシムルコトヲ行フヲ打フト云フ。二人  
 對坐シ互ニ五指ヲ屈伸シ指ノ數ヲ呼ビツキ出シ其數  
 方ノ出シ先指數ヲ合算シ呼ビ先數ニ中リタル者勝トス同  
 聲ナルニ勝負ナシ  
 呼聲ハ一ヲイハ又ハ單トシニヲ兩  
 三ヲ先、四ヲ先又ハ四先、五ヲ先又ハ六ヲ先、又ハ六先  
 七ヲ先又ハ七先、八ヲ先、九ヲ先又ハ十ヲ先  
 都來

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

相戦

（都）統一統より来、助旗、帰去来ホト、来ト云、<sup>三</sup>本勝ナラフ無<sup>ニ</sup>手  
又ハにきりト云フ、三四ヲ一回トシ三本勝アツト云フ本則ト  
ス、以上ヲ長崎<sup>ニ</sup>奉<sup>レ</sup>モ云、他名ニ對<sup>シ</sup>ニ本<sup>ニ</sup>奉<sup>テ</sup>モ云フ

一本勝負ナラフ、<sup>三</sup>指ヲ出サヤ

此方<sup>ニ</sup>、数ヲ呼ブニミテ中<sup>ニ</sup>ルヲ片<sup>ニ</sup>奉<sup>ト</sup>云フ、<sup>一</sup>本増<sup>（</sup>

相手一指ヲ出セルニ此方二指ヲ出セル如キ）ヲ勝<sup>シ</sup>タルヲ大坂

奉<sup>ト</sup>云フ、尚<sup>ニ</sup>種々ナル打方アリ、其外変態<sup>ナル</sup>三<sup>本</sup>練<sup>ノ</sup>

狐<sup>（</sup>奉<sup>）</sup>（庄屋<sup>ニ</sup>奉<sup>）</sup>、<sup>（</sup>藤<sup>）</sup>八<sup>（</sup>奉<sup>）</sup>、石<sup>（</sup>奉<sup>）</sup>（<sup>）</sup>、<sup>（</sup>ビヤル<sup>）</sup>奉<sup>（</sup>）<sup>）</sup>、<sup>（</sup>器<sup>）</sup>奉<sup>（</sup>）<sup>）</sup>、<sup>（</sup>下<sup>）</sup>名<sup>（</sup>條<sup>）</sup>ヲ見<sup>（</sup>）

（上ニナリ）

嬉<sup>（</sup>必<sup>）</sup>笑<sup>（</sup>見<sup>）</sup>、十、相<sup>）</sup>戦<sup>（</sup>、江戸名物<sup>）</sup>、<sup>（</sup>鑑<sup>）</sup>（文化）奉<sup>（</sup>）<sup>）</sup>、<sup>（</sup>米<sup>）</sup>淋<sup>（</sup>

ヤ指<sup>（</sup>）<sup>）</sup>テ<sup>（</sup>）<sup>）</sup>、秋<sup>（</sup>）<sup>）</sup>、<sup>（</sup>雲<sup>）</sup>、唯、<sup>（</sup>奉<sup>）</sup>ヲ<sup>（</sup>）<sup>）</sup>、<sup>（</sup>打<sup>）</sup>ツ<sup>（</sup>）<sup>）</sup>、<sup>（</sup>モ<sup>）</sup>、<sup>（</sup>奉<sup>）</sup>ヲ<sup>（</sup>）<sup>）</sup>、<sup>（</sup>ま<sup>）</sup>ふ<sup>（</sup>）<sup>）</sup>、<sup>（</sup>ナリ

奉<sup>（</sup>）<sup>）</sup>、<sup>（</sup>角<sup>）</sup>力<sup>（</sup>）<sup>）</sup>、<sup>（</sup>圓<sup>）</sup>、<sup>（</sup>金<sup>）</sup>（文化）上、<sup>（</sup>昔<sup>）</sup>、<sup>（</sup>清<sup>）</sup>、<sup>（</sup>証<sup>）</sup>、<sup>（</sup>長<sup>）</sup>、<sup>（</sup>崎<sup>）</sup>、<sup>（</sup>圓<sup>）</sup>、<sup>（</sup>山<sup>）</sup>、<sup>（</sup>所<sup>）</sup>、<sup>（</sup>設<sup>）</sup>

時、彼所、<sup>（</sup>青<sup>）</sup>、<sup>（</sup>楼<sup>）</sup>、<sup>（</sup>唐<sup>）</sup>、<sup>（</sup>人<sup>）</sup>、<sup>（</sup>マ<sup>）</sup>、<sup>（</sup>マ<sup>）</sup>、<sup>（</sup>来<sup>）</sup>、<sup>（</sup>リ<sup>）</sup>、<sup>（</sup>宴<sup>）</sup>、<sup>（</sup>ヲ<sup>）</sup>、<sup>（</sup>設<sup>）</sup>、<sup>（</sup>ク<sup>）</sup>、<sup>（</sup>モ<sup>）</sup>、<sup>（</sup>酒<sup>）</sup>、<sup>（</sup>障<sup>）</sup>、<sup>（</sup>ニ<sup>）</sup>、<sup>（</sup>及

バ、<sup>（</sup>頂<sup>）</sup>、<sup>（</sup>唐<sup>）</sup>、<sup>（</sup>人<sup>）</sup>、<sup>（</sup>左<sup>）</sup>、<sup>（</sup>右<sup>）</sup>、<sup>（</sup>ニ<sup>）</sup>、<sup>（</sup>ワ<sup>）</sup>、<sup>（</sup>カ<sup>）</sup>、<sup>（</sup>レ<sup>）</sup>、<sup>（</sup>云<sup>）</sup>、<sup>（</sup>ニ<sup>）</sup>、<sup>（</sup>奉<sup>）</sup>、<sup>（</sup>ヲ<sup>）</sup>、<sup>（</sup>拾<sup>）</sup>、<sup>（</sup>ヒ<sup>）</sup>、<sup>（</sup>マ<sup>）</sup>、<sup>（</sup>ン<sup>）</sup>、<sup>（</sup>云<sup>）</sup>、<sup>（</sup>百<sup>）</sup>、<sup>（</sup>ヶ<sup>）</sup>、<sup>（</sup>ト<sup>）</sup>、<sup>（</sup>見<sup>）</sup>、<sup>（</sup>ス<sup>）</sup>、<sup>（</sup>云<sup>）</sup>

、<sup>（</sup>今<sup>）</sup>、<sup>（</sup>世<sup>）</sup>、<sup>（</sup>ニ<sup>）</sup>、<sup>（</sup>云<sup>）</sup>、<sup>（</sup>フ<sup>）</sup>、<sup>（</sup>長<sup>）</sup>、<sup>（</sup>崎<sup>）</sup>、<sup>（</sup>奉<sup>）</sup>、<sup>（</sup>澄<sup>）</sup>、<sup>（</sup>籬<sup>）</sup>、<sup>（</sup>是<sup>）</sup>、<sup>（</sup>ナリ）<sup>（</sup>、<sup>（</sup>圓<sup>）</sup>、<sup>（</sup>山<sup>）</sup>、<sup>（</sup>西<sup>）</sup>、<sup>（</sup>ノ<sup>）</sup>、<sup>（</sup>出<sup>）</sup>、<sup>（</sup>部<sup>）</sup>、<sup>（</sup>創

、<sup>（</sup>永<sup>）</sup>、<sup>（</sup>九<sup>）</sup>、<sup>（</sup>年<sup>）</sup>、<sup>（</sup>ナリ）

明月記  
 曆三月七日  
 十日明後日  
 奉幣五位  
 人数極少  
 沙汰喧嘩  
 美入吉社

喧嘩

喧嘩

△文選。蜀都賦「喧嘩見沸」

那

(一) カマヒスレキイ、サワカレキイ。

8 太平記三五、北野通夜物語「檀那夫婦、俄に喧嘩ヲ為出シテ共ニ打合ヒケル間」

史記叔孫通付(置酒)負朝(魚)取(喧嘩)失礼者

洛陽回樂記(朝野群戲)洛陽、上下田樂、成等行ハル、フヲ

記シテ、日不無絶喧嘩之甚驚人耳

(二) イサカヒ、争ヒ闘フ。イサツハ、言送、怒聲ノ騒ガレキリ移ル

8 評闘、一ノを買六、一ノを買三ト云フ。ハカハ、係日見日

尺素往本(文明)、企印地招喧嘩

室西殿日記十九、好喧嘩、徒黨之輩、ツト若者等リ胸カラ

三ニヒト握  
 具事(後ル徑路ルヘシ)

(ナカ)

特心

抄

才

元

西成

北條時

茶

下

生

申限耳鑑

喧嘩仕置

手ノ出セ口折ラセバ馬鹿面

後撰夷曲集(寛文六)北條名ニ馬子共ノ喧嘩スルヲ見テ

喧嘩西成敗ト云フハ單隨ニ先者双方ト云フハ

印状ノ喧嘩口論臣停止之上於邊背者不論理非双方

可成敗此令條籍倉北條氏ニ始ルト云フ

喧嘩過ぎての棒ナカリト云フトハいざわいざ見

北條時

茶

下

生

後台

方于詩

律儀

外也詩

思入

田中

林下

閑

本

又喧嘩過ぎての棒ナカリト云フトハいざわいざ見

又喧嘩過ぎての棒ナカリト云フトハいざわいざ見

又喧嘩過ぎての棒ナカリト云フトハいざわいざ見

又喧嘩過ぎての棒ナカリト云フトハいざわいざ見

又喧嘩過ぎての棒ナカリト云フトハいざわいざ見

又喧嘩過ぎての棒ナカリト云フトハいざわいざ見

又喧嘩過ぎての棒ナカリト云フトハいざわいざ見

又喧嘩過ぎての棒ナカリト云フトハいざわいざ見

又喧嘩過ぎての棒ナカリト云フトハいざわいざ見

又喧嘩過ぎての棒ナカリト云フトハいざわいざ見





三京都ノ建仁寺ニ建テ名ヲ初メスニテ西開キ二扇ノ門ヲ敷ク  
 内ノ中ノ類ニ敷ク漸ク歩ミテ殿ヲ脱ギテ階ニ昇リテ  
 日工集至徳三年九月廿二日忽有敵寇突入者山名園川  
 大牙清ノ来礼也此河武家ノ御ミ移リテ對面ノ中ノ門ヲ

三轉ジテ對面ノ門ヲ降ク  
 三轉ジテ對面ノ門ヲ降ク

室丹殿日記義輝公最後ノ玄關ニ出テ名ヒテ美取リ引キツク  
 三轉ジテ對面ノ門ヲ降ク

三轉ジテ對面ノ門ヲ降ク  
 三轉ジテ對面ノ門ヲ降ク

三轉ジテ對面ノ門ヲ降ク  
 三轉ジテ對面ノ門ヲ降ク

寺ニ去院  
 皇降ノ  
 堂上方  
 車宗武  
 家ノ正面  
 入口ノ  
 門ノ名上ル

江戶市中之名主ノ宅ヲ見ハトヒテ所人ノトセセ勤務  
 アル因テ玄關ヲ楯ヘタルナリ

△塩虎其著  
 録  
 藤堂相

はらげう名建業榎校(初ノ建業トセリト云フ其業ヲ  
 建テタル義ニテ流祖ノ名ニテ子ノ首ニテ相承ケテ稱シタルト  
 云フ(或云建業ノ秘器ノ名ナリト)然レテ平家親理法師トシテ  
 室親家ノ出頭ノ至首ノ御聽ミ入ルヲウナリシヨリ大強音ノ似タル  
 ヲ以テ僅官ノ榎校ノ稱ヲ冒シタルモノナリト云フ平家親理法師  
 ノ祖ノ建業ノ生母ヲ其門流如一建業ノ一方ノ祖ヲ稱シ城一建  
 業ノ城方ノ祖ナリト  
 平家親理法師トシテ亡官ノ上首ノ稱。まうらんノ條  
 ヲ見ヨ

次



高野寺  
三十三

後二寺社ニテ總務ヲ監督ス石清水僧良八幡宮能也三山東大  
寺金剛峯寺(高野之)金峯山寺等ノ上首ナリ  
文徳實錄七、齊德二年十月、修理東大寺大佛司檢校  
沙石集二下、高野南證房ノ檢校

(三) 亡目官 次條ヲ見ヨ

宇多天皇實平六年益信上人ヲ東大  
檢校補セラルルヲ存トスレヨ

ハニト云 玄機 不可見 條ヲ見 賢者ノ名

賢者ノ名 賢者ノ名 賢者ノ名 賢者ノ名 賢者ノ名  
賢者ノ名 賢者ノ名 賢者ノ名 賢者ノ名 賢者ノ名  
賢者ノ名 賢者ノ名 賢者ノ名 賢者ノ名 賢者ノ名

江戸ノ新吉原ニ坊主名ノ異名 實文以ヨリ 賢者ノ名  
行語ニルベシト云 賢者ノ名 賢者ノ名 賢者ノ名

三人目ヲ憚ルルニ賢者ノ扮装ニテ長羽織着テ入り  
好色旅日記(真享)三、坊様道四五人此宿ニ入ルバ女さまテラ  
さまニ見んさまナト云ロヒヤシ

吉原つねの草(元禄) 淺草アタリノ玄色里ニウカレキ 証  
江戸坊主ノ事ヲ以レテ云ト云ルハ彼里ノ言葉ナリ

官本洞房語園(事保) 宣文頃、吉原流行唄、見さま、長羽織  
 誰袖油(元祿)、出家、衣、代り、長羽織、醫者、見せかす  
 大書舞歌、坊さま、長羽織

(正座、身保)

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

見さま  
 人、連名  
 一トニモ  
 云フ

げんざん(見参) 現在参着、義末、對面、参り、見参、者  
 謝、本、對面、参り、或、見参、字、音、譯、并、別、名、也  
 げんざん、幼、を、云、フ、り、題、證、け、そ、う、還、向、け、か、う  
 (一) 現在、参、り、テ、アル、也、現、祇、候、シ、テ、アル、也、又、げん(缺席、云、云)  
 類、聚、國、史、七、十五、歲、時、節、一、一、五、位、以、上、賜、祿、有、差  
 并、背、親、官、見、記、弘、安、六、年、依、釋、奠、學、生、見、参、也  
 太、政、官、式、考、選、文、大、臣、以、下、史、以、上、謝、座、著、其、座、云、次、雅  
 樂、寮、作、音、樂、此、洞、道、掃、頭、次、奉、一、竹、濤、奉、註、退、出  
 此、京、日、記、勸、學院、寮、也、あ、あ、み、ま、あ、あ、ん、の、ふ、み、も、又、あ、あ  
 建、永、社、元、寶、私、五、拜、九、有、十、日、中、守、而、居、也、建、永、社、元、寶

西宮記 土月初五日 使者依直者取諸陣 一給祿

Faint handwritten text in the left column of the right page, likely bleed-through from the reverse side.

(みゆは條ヲ見ヨ)

けんぞん 是冬八月 参りて 字多首 護けり云云 云云

検非違使 けり云云

面合

見エテ 是冬 是冬 是冬 是冬 是冬 是冬 是冬 是冬 是冬 是冬

源 精 是冬 是冬 是冬 是冬 是冬 是冬 是冬 是冬 是冬 是冬

保元親 是冬 是冬 是冬 是冬 是冬 是冬 是冬 是冬 是冬 是冬

字 是冬 是冬 是冬 是冬 是冬 是冬 是冬 是冬 是冬 是冬

山内一重 是冬 是冬 是冬 是冬 是冬 是冬 是冬 是冬 是冬 是冬







入レタリ延喜寺ノ御物也(古書に載)

著聞集六、菅原公孫、條三永保三年、青白河院、珥出野馬

馬ヲ大納言經信ニ彈カセテ玄象トハ如何ト問ハセタリ、經

信申スニ、昔、前一條院ノ御時、信明ニ玄象ヲ信義ノ牧馬ヲ

彈カセラレル、牧馬スルニ、間工取リカテ玄象ヲ彈クニ玄象スル

ク、珥出野馬ノ勝者ニテ、玄象ノヨリ、ト奏セシ(竹節文)トナリ

謠草  
陳通  
云左旁  
知取謂  
之見證

又、<sup>ケニシテ</sup>見證ハ見證ヲ約テ濁ル、顯證ハ條、語草ヲ見ヨ

又、<sup>ケニシテ</sup>見證トモニフ、名目抄、見證、常ノ音シヨ、也、依、名目

志ヨ、也、又、上ニ引カレテ濁ル也、還昇ヲ見、志ヨ、レモ云フ

國、其、<sup>カ</sup>蹴鞠ト、<sup>カ</sup>競技ヲ、傍ニ居テ、勝負ヲ見、石ヲ

源、<sup>カ</sup>相撲ノ行司ノ如シ、又、見、志ヨ、<sup>カ</sup>左、<sup>カ</sup>駢、<sup>カ</sup>具

トテ、近ウカ、フ、ヒ、タ、マ、フ、<sup>カ</sup>見、君、ヲ、美、シ、ム、キ、タ、マ、ヒ、テ、侍、從、ノ、オ、ホ、エ、

ヨ、ヨ、ナ、ク、ナ、リ、ニ、ケ、リ、御、物、ノ、名、を、ユ、ル、サ、レ、ニ、ケ、ル、ヲ、ヤ、ト、テ、オ、ト、ナ、オ、ト、ナ、シ、キ

汝、シ、テ、御、居、タ、マ、ハ、ハ、

狭衣ニ、其、名、打、タ、マ、フ、ナ、リ、ケ、リ、疾、ク、マ、サ、リ、見、シ、仕、フ、マ、リ、ヘ、カ



漢字  
水  
間  
水  
間  
水

漢字  
水  
間  
水  
間  
水

此後一日三食  
（二）轉  
身  
水  
間  
水  
間  
水

問曰辨筆（實誤）四、今世造作ヲ時諸職人、三時ノ良

物、外ニ坐カヲフ冠ルルク酒餅、數ヲ世ルヲ見トテ其字未知

未知トテ東書ノ邊零依ヲ見テ碓水ノ字見トテ天正十九年六月糖用

作不目注未三支精碓水ノ日五十六文酒碓水者、橋水

間ノ良カト云ハリ（朝村村水ノ傳見）

東歸子（重和）農民鋪時前、良トテ見テトテ間吹ナル

ハ建水ノ古ク者キ米ト橋標ノ知テ下ト云、雲果記延喜式

間合良後世碓水ノ異ナルト云

10 根岸 表むらや製

特大五五、死行ハ、車

碓水間水ト書カル音字ナリ

けん、むろ、玄水ハ、辨正額、玄胡滑切音懸、常、濁音

ニ云フハ吳者ナリ驗、見テ參見ト云、碓水ト書カル音字ナリ

禮記禮運ノ節、玄酒在座ト云、玄酒水也、僧侶、精

酒ノ異名、天工ノ語、見テ參見ト云、碓水ト書カル音字ナリ

酒ノ異名、山前得湯風、其條ヲ見テ

雜談集（嘉元）僧無任、金剛院、院主、庚子ノ律僧

夏ノ既齋面ノタノ奉リケル、人ヲ召シテ大乘ノ茶考ラセヨト云フ何

物ニト思フホト、打鉦子、玄水トテ入レテ來リ、大乘茶玄

水隱語也

永德二年春日社燒失記、見テ六升、沸供二前席

此條  
無誤

碓水  
間水

奉行ヨリ大工ニ送ルル同八月廿五日米摺三方常住ニ以ん水  
代南北工六箇文(古事本苑)

林逸竹節用(文明)財寶「硯水」下酒

匠歩多色葉集(硯水)咸陽宮作時依高硯水凍入酒

則硯水不凍餘酒大工飲之今世傳來曰硯水也(昔ノ

教科書ニル史記ニ據リ設ケ先附重ヨリ愚者ヲ阿房

宮ニ寄セ七十五ノ同シ)馬林竹節用(慶長)合服「硯水」

物類稱呼(水)酒「管内」番匠ノ詞「間水」云々

自注文

△田田耕筆(寶政)四古文書零依天正十九年六月樽送作冊  
硯水一日分有林竹節用十六文酒硯水

見たりし遣唐使ニモロコシノツカヒ入唐使古ノ朝廷ヨリ

支那ノ唐代ノ朝廷ニ遣ハレテ國去贈物ヲ奉リ唐ニ布ニ謁

見使臣陸時官トシテ大使副使官録事譯語等ヲ任

セラレ四艘ノ船ニ分乘シテ發シ支那ノ明州(今ノ寧波)ニ着キ

船長上陸シ彼ノ國都ニ至ラテ定メトシタリ此使臣

德明天皇ノ時代ニ始リ仁明天皇ノ承和年中ニテ十回ナリシガ

字多天皇ノ寬平六年ニ世良原道真大使ニ付セシメタド時唐

國ノ亂ニ遭ヒテ四艘ノ其後永ク絶エタリ

舒明紀二年八月以大仁大上君三回經大仁ヤ藥師惠日遣於

大唐

孝德元白雉四年五月、發遣大唐大使、小上吉士長丹  
副使、小上吉士駒云々  
續仁八、養老二年十月、太宰府言遣唐使往回位下多  
治以真人縣年來得  
中平、未平十月、入唐副使中臣兼光、并唐由口美良等言  
續後、承和二年二月、遣唐判官長岑高名、譯語大和耳  
主廬原有年  
萬十九、賜酒者、入唐使、藤原朝臣清河經歌、四  
船早還、乘トシラカツケ、朕が裳、裾ニ鎮ヒ待タム  
古今、雜下、實平、御時ニ云云、レハ官ニ召カレ侍リケル時ニ

十六

云々(歌)

松

ケシダツバビヤウ、乾陀婆城、ハ梵語、乾陀婆( Gandharva )

ハ天竺、神名、天上界、言、樂ヲ奏ス上云、慧琳音義、三、唐、續、常

樂上界、諸天、設、樂、也、言、昔、時、代、諸、國、并、護、專、務、云

天竺、云、辰、虫、云、華、樓、一、稱、土、華、具、城、則、樓、也、

大智度論、六、日、初、出、時、具、城、以、樓、櫓、宮、殿、行人、出入、日、轉

高、轉、海、此、城、云、云、名、是、乾、陀、婆、城、也、

太平記、三十九、自大元、致、日本、一、家、古、船、數、萬、艘、博、多、海、津、

海、津、云、云、辰、虫、氣、柔、三、日、一、日、出、セル、カ、ト、在、ル、

云々、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、

云々、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、云、

考德純自維...

大正...

天...

...

けんたん 橋新

(一) 非...

非遣使...

日...

...

...

...

...

...

...

以下...

武家名目地職名其五上「七守護」職等、檢断ヲ旨トスルハ勿  
 論ナドモ、鎌倉七火將家、時定ヲ以テシテ大番役、催促、謀殺  
 人殺害人ノ檢断スベテ三箇條ヲ身好トシ其外ニ強盜、竊盜  
 山賊、海賊等、檢断ヲモ兼テ行ヘリ  
 同職名十五、足利殿時、一職等ハ、總テ侍所ノ承タマハ  
 所ニテ所司以下侍所ノ被管タル諸事、專ラ其業ニ從ヘリ  
 (三)後ニ大庄屋ヲ、一ト稱シ仙其領テハ宿願、問屋場  
 ノ小役ヲモ稱シタリ  
 地方凡例録七上、大庄屋云々、國ノ傍割元或ハ終庄屋  
 一トナドモ、呼ビテ所モアリ

後ニハ歴  
 コトモイフ  
 大名ハ、老  
 ナドナリ

けんごん 俵詰(一)俵約詰、畧テ(二)工面モ工夫面奥ナルト  
 一人前一杯ニテハケリモナキ、意ト云フ、俵訓、葉中編、けんごん、旅店  
 ノ種類ヲ云フハ、俵詰也ト云ヘリ、タラハ、此當字ニ、慥々負ト書シ  
 (二)汁ヲ煮タル、器詰ヲ井ニ一杯、盛キリ切ニテ賣ルモノ、茶高麦切ニ  
 云フ、井ガリナキナリト云フ、初メハ、下民ノ長ナリキ、コレヲ賣ル  
 家ヲけんごん屋ト云フ、移リテハ一杯盛切ニテ賣ル物ノ稱トモナ  
 レリ、けんごん酒、けんごん茶、良茶、飯ナトアリ  
 曾我虎磨(一)傾城十番斬、器詰ノコイ、傾城殿、ソレガ  
 けんごんけんごん(一)俵詰ト、慥々負ヲカケタリ  
 昔々物語(重保)、寛文四年、けんごん茶高、麦切ト云フ物出、手

倒





テ下マ買嗜フ貴人ニ嗜フ者ナカリシガ近年歴々モ嗜フ結搦  
ル座敷へ上ルヲ大名<sup>カ</sup>と云ヒテ拵へ出ス

嬉遊笑墮<sup>十</sup>大名<sup>カ</sup>と云フ一代男<sup>三</sup>川口屋<sup>三</sup>帆<sup>三</sup>舟<sup>三</sup>

ノ重箱相<sup>云</sup>帷<sup>三</sup>舟<sup>三</sup>諸大名ノ舟<sup>三</sup>五色ノ漆<sup>三</sup>漆<sup>三</sup>繪<sup>三</sup>カキ

又ナリ西園<sup>三</sup>大名<sup>三</sup>難<sup>三</sup>遊<sup>三</sup>ヲ<sup>三</sup>厭<sup>三</sup>シテ<sup>三</sup>出<sup>三</sup>立<sup>三</sup>ツ<sup>三</sup>故<sup>三</sup>其<sup>三</sup>船<sup>三</sup>ト<sup>三</sup>相<sup>三</sup>印<sup>三</sup>ヲ<sup>三</sup>見

習ヘリ大名<sup>カ</sup>と云ノ名<sup>三</sup>コ<sup>三</sup>ニ<sup>三</sup>悉<sup>三</sup>ル

近代世事談(重箱)一、慣合<sup>ト</sup>名<sup>三</sup>ツ<sup>三</sup>ル<sup>三</sup>云<sup>三</sup>給<sup>三</sup>仕<sup>三</sup>モ<sup>三</sup>入<sup>三</sup>テ<sup>三</sup>拵

拵スルニテアラネ<sup>ト</sup>ソノ<sup>三</sup>サ<sup>三</sup>慣<sup>三</sup>合<sup>三</sup>員<sup>三</sup>ナル<sup>三</sup>心<sup>三</sup>又<sup>三</sup>無<sup>三</sup>造<sup>三</sup>作<sup>三</sup>ニ<sup>三</sup>シ<sup>三</sup>テ<sup>三</sup>候<sup>三</sup>約<sup>三</sup>ニ

カナヒナリトテ候<sup>三</sup>訛<sup>三</sup>ト<sup>三</sup>書<sup>三</sup>云<sup>三</sup>テ<sup>三</sup>誤<sup>三</sup>一<sup>三</sup>且<sup>三</sup>ト

シ江戸<sup>三</sup>唐<sup>三</sup>子<sup>三</sup>(<sup>三</sup>貞<sup>三</sup>享<sup>三</sup>)見<sup>三</sup>頓<sup>三</sup>屋<sup>三</sup>堀<sup>三</sup>所<sup>三</sup>市<sup>三</sup>川<sup>三</sup>屋<sup>三</sup>屋<sup>三</sup>俗<sup>三</sup>文<sup>三</sup>選

(寶永)著<sup>三</sup>高<sup>三</sup>其<sup>三</sup>後<sup>三</sup>切<sup>三</sup>頓<sup>三</sup>慳<sup>三</sup>合<sup>三</sup>員<sup>三</sup>屋<sup>三</sup>土<sup>三</sup>岡<sup>三</sup>津<sup>三</sup>小<sup>三</sup>半<sup>三</sup>切<sup>三</sup>カ<sup>三</sup>と<sup>三</sup>云<sup>三</sup>酒

(大日本國語辭典)元<sup>三</sup>禄<sup>三</sup>單<sup>三</sup>出<sup>三</sup>物<sup>三</sup>詔<sup>三</sup>(<sup>三</sup>元<sup>三</sup>禄<sup>三</sup>)六<sup>三</sup>丸<sup>三</sup>屋<sup>三</sup>(<sup>三</sup>伴<sup>三</sup>ト<sup>三</sup>元

ツ<sup>三</sup>取<sup>三</sup>リ<sup>三</sup>ア<sup>三</sup>ヘ<sup>三</sup>下<sup>三</sup>出<sup>三</sup>ス<sup>三</sup>不<sup>三</sup>與<sup>三</sup>カ<sup>三</sup>ん<sup>三</sup>と<sup>三</sup>ん<sup>三</sup>ち<sup>三</sup>ら<sup>三</sup>茶<sup>三</sup>ノ<sup>三</sup>ワ<sup>三</sup>ケ<sup>三</sup>ヲ<sup>三</sup>立<sup>三</sup>ツ<sup>三</sup>ル

(三)カ<sup>三</sup>ん<sup>三</sup>と<sup>三</sup>ん<sup>三</sup>分<sup>三</sup>相<sup>三</sup>一<sup>三</sup>條<sup>三</sup>ヲ<sup>三</sup>見<sup>三</sup>ス

一、九五  
二、四  
三、五  
七、五  
八、五  
九、五  
十、五  
十一、五

男子ノ大人ト成ルヲ表スル儀式<sup>又</sup>首服<sup>田</sup>帽子<sup>親</sup>

冠者<sup>鳥</sup>帽<sup>子</sup>子<sup>ト</sup>之<sup>ト</sup>也<sup>ト</sup>童<sup>名</sup>ヲ<sup>改</sup>メ<sup>テ</sup>名<sup>乗</sup>ル<sup>ト</sup>官<sup>帽</sup>子<sup>名</sup>云

江戸時代<sup>三</sup>到<sup>三</sup>リ<sup>三</sup>テ<sup>三</sup>置<sup>三</sup>入<sup>三</sup>外<sup>三</sup>島<sup>三</sup>帽<sup>三</sup>子<sup>三</sup>ヲ<sup>三</sup>用<sup>三</sup>ス<sup>三</sup>唯<sup>三</sup>前<sup>三</sup>髪<sup>三</sup>胎

代<sup>三</sup>到<sup>三</sup>リ<sup>三</sup>落<sup>三</sup>シ<sup>三</sup>着<sup>三</sup>掛<sup>三</sup>湯<sup>三</sup>木<sup>三</sup>ノ<sup>三</sup>取<sup>三</sup>改<sup>三</sup>メ<sup>三</sup>申<sup>三</sup>御<sup>三</sup>明<sup>三</sup>治<sup>三</sup>以<sup>三</sup>後<sup>三</sup>

年表  
定  
大  
十  
五  
十  
六  
十  
七  
十  
八  
十  
九

冠者ノ大入ノ冠ニテハ...  
 又ハ首服  
 冠者ノ大入ノ冠ニテハ...  
 又ハ首服  
 冠者ノ大入ノ冠ニテハ...  
 又ハ首服

冠者

冠者

冠者

冠者ノ大入ノ冠ニテハ...  
 又ハ首服  
 冠者ノ大入ノ冠ニテハ...  
 又ハ首服

冠者ノ大入ノ冠ニテハ...  
 又ハ首服  
 冠者ノ大入ノ冠ニテハ...  
 又ハ首服  
 冠者ノ大入ノ冠ニテハ...  
 又ハ首服



廿萬姓統  
 諸國諸張  
 王太子諸  
 曰平姓

げんべいとうりまろ 源平藤橘

源氏平氏、藤原氏橘公ヲ列挙シテ云フ語、コレヲ四姓ナトトス  
 源氏、清和天皇ヲ皇子自紀親王ヲ祖トシ平氏ハ桓武天皇ノ皇  
 子高倉院親王ヲ祖トシ藤原氏ハ天兒屋根命ノ裔、中臣鎌  
 足ヲ祖トシ橘氏ハ敏達天皇ニ曾孫葛城王ヲ祖トシ此四祖、  
 末孫皆中姓トナリ、<sup>殊</sup>國中播殖シタハ特別ニ崇メテ云アリ  
 東遷録ハ其魏志反ハ時、<sup>姓</sup>播アリ、<sup>原</sup>雀盧平、<sup>鄭</sup>四姓、<sup>源</sup>  
 平藤橘、<sup>南</sup>留別志、<sup>四</sup>姓トシテ、<sup>東</sup>天竺ニアルアリ  
 源平藤橘、<sup>四</sup>姓トシテ、<sup>伊</sup>志ヲ信スルアリ、<sup>何</sup>平モ天竺ノ事ヲ  
 コレト思ヒテシニ擬シテ云ヘルナリ、<sup>天</sup>竺ノ四姓ハ貴賤、<sup>別</sup>テ其條ニ見

源氏平氏、藤原氏橘公ヲ列挙シテ云フ語、コレヲ四姓ナトトス  
 源氏、清和天皇ヲ皇子自紀親王ヲ祖トシ平氏ハ桓武天皇ノ皇  
 子高倉院親王ヲ祖トシ藤原氏ハ天兒屋根命ノ裔、中臣鎌  
 足ヲ祖トシ橘氏ハ敏達天皇ニ曾孫葛城王ヲ祖トシ此四祖、  
 末孫皆中姓トナリ、<sup>殊</sup>國中播殖シタハ特別ニ崇メテ云アリ  
 東遷録ハ其魏志反ハ時、<sup>姓</sup>播アリ、<sup>原</sup>雀盧平、<sup>鄭</sup>四姓、<sup>源</sup>  
 平藤橘、<sup>南</sup>留別志、<sup>四</sup>姓トシテ、<sup>東</sup>天竺ニアルアリ  
 源平藤橘、<sup>四</sup>姓トシテ、<sup>伊</sup>志ヲ信スルアリ、<sup>何</sup>平モ天竺ノ事ヲ  
 コレト思ヒテシニ擬シテ云ヘルナリ、<sup>天</sup>竺ノ四姓ハ貴賤、<sup>別</sup>テ其條ニ見

源氏平氏、藤原氏橘公ヲ列挙シテ云フ語、コレヲ四姓ナトトス  
 源氏、清和天皇ヲ皇子自紀親王ヲ祖トシ平氏ハ桓武天皇ノ皇  
 子高倉院親王ヲ祖トシ藤原氏ハ天兒屋根命ノ裔、中臣鎌  
 足ヲ祖トシ橘氏ハ敏達天皇ニ曾孫葛城王ヲ祖トシ此四祖、  
 末孫皆中姓トナリ、<sup>殊</sup>國中播殖シタハ特別ニ崇メテ云アリ  
 東遷録ハ其魏志反ハ時、<sup>姓</sup>播アリ、<sup>原</sup>雀盧平、<sup>鄭</sup>四姓、<sup>源</sup>  
 平藤橘、<sup>南</sup>留別志、<sup>四</sup>姓トシテ、<sup>東</sup>天竺ニアルアリ  
 源平藤橘、<sup>四</sup>姓トシテ、<sup>伊</sup>志ヲ信スルアリ、<sup>何</sup>平モ天竺ノ事ヲ  
 コレト思ヒテシニ擬シテ云ヘルナリ、<sup>天</sup>竺ノ四姓ハ貴賤、<sup>別</sup>テ其條ニ見

玉川まゝ二三 澤平藤原の中昔ヨリ 狹ノ廣キ姓ニ下 橋ノ狹キヲ數ニ入  
 此ハ 嵯峨天皇ノ皇太子ノ御縁ニ尊ニタルニヤアラム 此ハ 姓ノ本漢者ニサ  
 出テタルニ世ニイミシキ事ニテ思フニトスリ

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

ゲンキヤ

鐵櫃

下野國

げんをう 天鑑一八 玄洞和尚ノ那須野櫃ノ殺生石ヲ碎キ下

云フニ寄セラ名ツクニ云フ 世ツ出ヤラセキ (殺生石)ノ條ヨ見ヨ

鐵櫃ノ大ナルモノ 鐵頭 圓筒形ニテ長サ三寸 中央ニ穴ヨ六牙

木柄ヲスサテ丁字形ヲ成ス 專ニ石ヲ碎クニ用サシモノ 今ハ工面

不用サル 攻石椎 柴田退治記 以御鐵立前鶴前突山明齋築地

雜州府志(天和)七 土層 鐵櫃 其大者謂之兩古 那須野

有怪石云 號殺生石 玄洞和尚誦呪以大鐵櫃碎其石

然後怪止 世稱石破飛動 玄洞自茲石工謂大鐵櫃

直曰玄洞 日本山海名物圖經 一 金山 諸道具ノ圖ニ云

の具工形甚タ大ナリ (寶曆)

典 松 別

Handwritten text in vertical columns on the right page, likely bleed-through from the reverse side. The text is mostly illegible due to fading and bleed-through.

けやけし 形一 尤異ハけやけヲ轉シテ(赤あか、宅(ヤ)活用マ

シメシ語 転ヤカカリ、ヨハケシ、ヨハケシニ異ナリ

ケヤカカリ、ケヤカカリ、ヨハケシ、ヨハケシニ異ナリ

作賈紀六在九有哭聲 尤切合ハ新編 皇位既定誰人異言云々

舒明紀 陸奥守 陸奥守 陸奥守

字如抄、木、ケヤケ、木、物

源 三十三 勝義葉 九、例、辨、少、持、藤、藤、イト、ナ、ツ、カ、ミ、タ、ラ、サ、タ、タ、垣、テ、歌、フ

大殿、イト、ケ、ヤ、ケ、エ、ツ、カ、マ、ワ、ル、カ、ナ、ト

大鏡、末、代、ニ、ケ、ヤ、ケ、キ、人、命、保、ケ、テ、侍、ル、公、羽、ト、モ、ナ、リ、カ、レ

後三年軍記、紅、船、匠、房、眼、立、海、キ、テ、器、目、置、良、キ、武、士、合

フハカケ

✓

戰道ヲ知ラスコト獨言チクマニケルガ義家ガ郎等ヲ聞キテ  
我が主トドノ重人ヲサヤサキコト云フカト思ヒシ

トシハ「家礼」

(一) 尊者ニ對シテ敬礼ノ意ヲ表スルコト

源<sup>三十三</sup>ノ「膝裏草」ニ「文々指ニモ家礼ト云フ」事アルベクナリ

カシノ教ヘニ能ク世見ニ知ルベク

花鳥虫情「家礼ト云フ子ノ父ヲ敬フ事ナリ他人ナレトモ子ニ准ジ

テ礼ヲ致スル今ノ世ニモ家礼ト云ヒ奉レリ

史記「高祖本紀」高祖五日一朝太公如家父子礼

中右記「康和四年三月廿日」内大臣有大經臣等云「尊者進

寄南階揖讓之間主人居階西頭被揖是家礼之異

異化ニ身者儀「尊者源俊房主人源雅實」

今昔、サニ  
 家礼ノマニ  
 カクテアリタル  
 三書ニモ  
 之トモカバ  
 心置ナニ引  
 出物  
 (ヲ賜)

台記之安三年六月五日、佛德大寺、佛卷、法親王来  
 臨、余起入、佛中、依教、家礼也、(其時、原教長)  
 同仁平四年正月七日、宣命使卷、又按、佛指云、自本路、昇  
 殿、復座、余已下、離列、昇殿、註、此間、宣命使、降殿、依家  
 礼也、(余、時、原教長、宣命使、其子、兼長)  
 (三) 貴族ノ家、出入、祇候、人、  
 吾妻鏡、三十四、仁治二年、十月十九日、前武州、祇候、人、依、舊、遣、者、  
 怖畏、知、亦、如、新、留、下、國、事、頗、似、服、仕、人、也、

職、草、抄、下、執、柄、一、及、可、然、人、人、子、孫、謂、之、公、遣、雖、雖、累、代、  
 家、礼、之、人、不、失、其、名、雖、數、下、石、公、重、法、武、故、實、ヲ、習、心、カ、存、  
 近、裔、階、筆、後、續、二、諸、家、公、家、氣、重、撰、家、方、ハ、親、シ、附、キ、後、  
 行、出、入、シ、テ、官、仕、セ、ル、ヲ、家、礼、ト、云、又、子、ハ、父、母、ヲ、敬、下、ル、如、ク、撰、家、ヲ、  
 礼、ス、ル、故、也、  
 日次記事(其時)七月七日、昨六日、東西本願寺、末派、并、家、  
 礼、以、花、數、種、獻、門、庭、  
 是也(碩氣、後、見、也)





けれを  
来ル  
けれを

二長変

けれ他 服著ハ着了完了 着たり (服すはせ見)

トエリ 但三連体形外物ニ見エサレド此活用

着テアリ。着テリ。熱田縁起宮酢媛歌吾ガ初流龍巻上ニ  
一乃六セ、吾ガ夫子ガ著衣薄シ佐保屋痛ク莫吹キソ  
家ニ到ルルニテ同着ハ待テサキ我ガ危月、妹ガ着

中土ニ君ガ服九三身、牛年上堂小半起、兼縫カ、志  
キ、同十三ハ、栲ノ徳ノ枕、麻衣服ル、同十五、我ガ孫  
ハ又シクアテレ此我ガ家流妹ガ衣ノ垢ツ見トハ

Faint handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page.

日記  
末方

六名一子ハハニ義ヲ稚子ヨリ起シテ語ルベシ

(一) 雨雲ノ間ニ生レル人

方六六ニ父君ニ吾レハ真名子ゾ母乃自ニ吾レハ愛子ゾ

向五八ニ白銀ニ黄金ニ玉ニ何セムニ優レル寶古ニ若カシ

ヤモ

(三) 幼キ子ニコトモワラベ。幼見

土佐ノ月。日。舟人ニ比留子抱カシラニシル

(三) ウミノコ。ハツコ。男子孫。幾代ニテマ子トテテ。祖父以上

幾代ニテニ難トシガ如シ。沛代ウツノ天皇ヲ天津神ノ沛子

ト申シ奉リ大己貴命。素戔嗚尊ノ六世ノ孫ナルヲ(古事記)

日記  
末方

下ノ名一子ハハニ義ヲ稚子ヨリ起シテ語ルベシ

(一) 雨雲ノ間ニ生レル人

方六六ニ父君ニ吾レハ真名子ゾ母乃自ニ吾レハ愛子ゾ

向五八ニ白銀ニ黄金ニ玉ニ何セムニ優レル寶古ニ若カシ

ヤモ

(三) 幼キ子ニコトモワラベ。幼見

土佐ノ月。日。舟人ニ比留子抱カシラニシル

(三) ウミノコ。ハツコ。男子孫。幾代ニテマ子トテテ。祖父以上

幾代ニテニ難トシガ如シ。沛代ウツノ天皇ヲ天津神ノ沛子

ト申シ奉リ大己貴命。素戔嗚尊ノ六世ノ孫ナルヲ(古事記)

(抄ノ一ノ巻ノ末ノ頁ノ末ニシテ)

神代紀三子トシテアリ

一、(一)事物、北杜雌雄ノ間ニ生レルモノハ

「糠料」(オクシクシ) 穀子、ヤリの子、蝦子、鳥子、(卵子)

一、(二)草木ノ幹、骨、好シテ生ヒ出ツルモノ

古事記下(仁德) 九、天皇恋ハ田若御女賜遣湯歌

「八田」一本菅ハ古持タズ立カ荒シナム云々(八田白王女)

皇子オハシヨラス) 始邊(ハ) 我ノミヤ子持タルテハ高

六、砂ノ屋上ト松モ子持アリ、「竹子」木ノ子「茅ノ子」

(天) 井月 元金ヨリ生ル利子。利息。(子ノ子息ト云フ)

持統紀元年七月、凡負債者自西年以前物莫收利也

若既役身者不没役利、通證、利息也故訓為子代

野之子ノ子

六、(一)親カ子ヲ呼ビシニ起テ自ラモ呼ビ人モ呼ビシ語ト云フ

南齊書リト因テ、其ノ子ト云フ、其ノ子ト云フ、其ノ子ト云フ

其ノ子男子ニ通稱、(白虎通) 其ノ子ト云フ、其ノ子ト云フ

合ナリ、(白虎通) 其ノ子ト云フ、其ノ子ト云フ

(二) 男子ノ通稱、人ト云フ公カ如シ

水米米市夕久米能古ト云フ(神代紀)

神武天皇、大率目新ヲ俱梅能古ト呼ビタリ(神武紀) 丹後

ノ水江浦島子ハ自ラ字良志麻能古ト云フ(釋紀) 丹後

國史土記) 吉備臣屋代モ自ラ鳴之盧能古ト稱シ(雄略

紀) 推古天皇、其蘇我馬子ヲ蘇我能古ト呼ビタリ(推古

左傳記  
公十二年注

久米化  
八分百  
五十分勢  
故(知子)  
カホホマ  
夜ハリ  
万十四  
大至勢  
ハ能古也  
(沙夫ノ子)

紀(大) 大匠、妻夫ヲ既溺能古云(雄) 出葉  
三三(一) 臣之(士) 方二(一) 身(一) 高(一) 若草(一) 其(一) 嬬子  
ハサフシ(カ) (夫) 神(道) 袖(歌) 採(歌) 白銀、目(貫) 大  
カマ下ケ仰キテ 奈良(都) 速ル(誰) カ(ノ) ゴ(ノ) 舟子(網)  
子(子) 獵子(田子) 馬子(江) ツ子(河) 峯(ツ) 子(人) ツ子  
万(二十) 五(十) イ(サ) 子(ト) モ(人) (人) 狂行(莫) 為(ノ) 天(地) 野(ノ) 國  
ゾ大和(島) 根(文)

古事記下

古事記  
雄(一)  
音(一)  
新(一)  
子(一)

万五(三) 松(博) 為(佐) 欲(此) 貴(能) 古(ガ) 領(中) 振(レ) 殊(ニ) 女(親)  
万二(十) 八(三) キヤ(ン) 吾(ガ) 嬬(乃) 見(カ) 身(尊) 人(也) 思(ヒ) 妻(子) (妻)  
同(五) 卅(一) 見(等) ガ 家(路) 稍(間) 遠(キ) 又(ハ) タ(タ) 夜(渡) 此(月) 鏡  
七(敷) 公(坊) 毛(一) (妹) (子) (子)  
用(明) 紀(元) 有(正) 月(月) 葛(城) 直(野) 櫻(林) 女(廣) 子  
子(崎) 崎(天皇) 皇(女) 子(子) 因(親) 正(統) 紀(元) 承(和) 九(年) 正(月) 更  
衣(袂) 傳(傳) 康(子) 山(田) 近(子) 伊(勢) 力(力) 一(た) か(き) 六(十) 由(女) 御(竹) 取  
内(侍) 中(臣) 小(玉) 子



△石三十一「女」字曰大名児同十六六「有娘子」字曰櫻児△

女ノ名「子」ナルニ上代ニ貴賤ニワカリ平安朝時代ニ貴女ニ用

日ニフルガ如シ後世又上テワリ也亦身分アリ又世アル女

ニ限レタリ又梅、松ト云フガ如シ他ヨリ梅子松子ヲ吟ブハ稍尊稱

タル意アリお梅お松ト云フガ如シ自ラ梅子松子ト稱テ稍自

尊ノ意ナシ和歌自著ノ署名ニ用キルハ梅子ナキカ戸外措面

ノ名ナルニ論ナシ然レテ今モ下民ノ女ニ子ヲツクルナレ

六「梅」ヲ引一其物事ノ体ヲ成サシメ名詞ヲ形作ラシムル語ナカ

漢語ハ冊子惟子靴子惟子袴子惟子サカ子ト子同暗ハ刑

ト別ハ成レシメトナク刑刑刑刑刑刑刑

類語ニ用セラレタガ多シ

意味ナク種々ノ語ノ下ニツクル語多ク物事ノ意ヲ成ス

「様子」襦子猫子（如ク鳴聲）刑猪子鹿子雜子鳴

聲）泥子砂子鳥子織子針子削子糸子剃子入子...

「様子」羽子茶子團子切子張子入子...

「様子」根子隅子形子糸子面子針子...

大山子△則レ...

幸子(香)

二子線





散木集迹懐百首、アハレテ身ノコトクサハ霜枯レテハモヤモヤハ海  
 ナケリ、「小屋」コヅ「小暗」コクツ  
 「三」スコシ、少「小金」コネ貯<sub>テ</sub>「中着」ナカヂ「小錢ヲ入<sub>テ</sub>」コネ  
 「四」足<sub>ニ</sub>又<sub>ニ</sub>及<sub>バ</sub>又、弱「小半時」コナカシ「小半」コナカ「小一時間」コイチジカン「小百圓」  
 「五」智ノ足<sub>ニ</sub>又<sub>ニ</sub>及<sub>バ</sub>又、照照<sub>ル</sub>「小賢」コケン「小利」コリ「小二錢」コニセン「小オカ」

六十一、老ニ「公案」

禪家用語、高僧ノ史中尋、宗旨本意ヲアテ、依標トシ、  
 是レ語ヲ深<sub>ク</sub>悟道トシ、問題トシテ示スルモノ、瑞雲集古則  
 依<sub>テ</sub>標<sub>トシ</sub>、是レ是<sub>レ</sub>「公案」  
 禪宗無門闢、遂<sub>ニ</sub>村<sub>トシ</sub>支<sub>トシ</sub>公案、作<sub>テ</sub>敲門<sub>ノ</sub>子、隨<sub>テ</sub>揚<sub>テ</sub>引<sub>テ</sub>  
 學<sub>ヲ</sub>、中峰廣録山房在話上、「公案乃喻字公府<sub>ノ</sub>業情」  
 世云、公者乃聖賢、其<sub>ノ</sub>輪<sub>ノ</sub>、天下同其途<sub>ノ</sub>之<sub>ニ</sub>至<sub>リ</sub>理也、業者  
 乃就<sub>テ</sub>聖賢<sub>ノ</sub>為<sub>テ</sub>理<sub>ノ</sub>之<sub>ニ</sub>正<sub>ス</sub>也、

語由春日新神、恒沙者属、



此風者曰信風。其風之  
吹向赤道者。其風之  
吹向赤道者。其風之  
吹向赤道者。其風之  
吹向赤道者。其風之  
吹向赤道者。其風之  
吹向赤道者。其風之  
吹向赤道者。其風之  
吹向赤道者。其風之

トラーレト云々 恒信風ハ英語 Trade Winds 譯語曰天  
英國古語 Treadan (直行ノ義) 方向一定ノ意) トラーレト  
ニ貿易風ト譯スルノ誤ナリト云々 補入ノ大者 格式ノ稱ナリ  
恒ニ一定ノ方向ニ吹ク風ニ稱ス。又恒信ノ貿易風。(此風ハ赤  
道ヲ中心トシテ北緯三十度ト南緯三十度ト間ニ吹ク。赤道附  
近ノ上昇氣流ノ在リテ之ヲ補公カクテ其風ニ極地ニ吹キリ地球自  
轉ノ勢ニ因リテ北半球ニ南東風。南半球ニ東南風ト稱ス  
一定ノ不變ノ風ト云々 又十万里以上ノ距離ニ吹ク(常風)  
之者ハ(常風) 丹羽云(日本誌)ト云々 准風主准國持ト云々

東に... 東北... 東北... 東北...  
 東北... 東北... 東北... 東北...  
 東北... 東北... 東北... 東北...  
 東北... 東北... 東北... 東北...  
 東北... 東北... 東北... 東北...  
 東北... 東北... 東北... 東北...  
 東北... 東北... 東北... 東北...  
 東北... 東北... 東北... 東北...  
 東北... 東北... 東北... 東北...  
 東北... 東北... 東北... 東北...

大志「國主」一箇國ノ領主

江戸時代大名一箇國以上ヲ領有者ノ稱。コレヲ國持大名トモ云フ。  
 一國ヲ領セザレトモ其領地ノ大ナル者ヲモ稱ス。大名格式ノ稱呼ナ  
 リ。松平氏(越前)、松平氏(出雲)、前田氏(加賀)、島津氏(薩摩)、大隅  
 伊達氏(備前)、酒井氏(肥後)、重田氏(安藝)、毛利氏(備前)  
 長門) 鍋島氏(越前)、池田氏(因幡)、池田氏(備前)、藤堂氏(伊勢)  
 蜂谷氏(阿波)、山内氏(五右衛門)、有馬氏(備前)、佐分利氏(備前)  
 氏(備前)、以上十八國主ト云フ。又十萬石以上、伊達氏(安藝)  
 立花氏(備前)、丹羽氏(三本姓)、トテ准國主准國持ト云フ。

酒井氏(備前)、以上十八國主ト云フ。又十萬石以上、伊達氏(安藝)  
 立花氏(備前)、丹羽氏(三本姓)、トテ准國主准國持ト云フ。

酒井氏(備前)、以上十八國主ト云フ。又十萬石以上、伊達氏(安藝)  
 立花氏(備前)、丹羽氏(三本姓)、トテ准國主准國持ト云フ。

此經之義... 變礙曰色... 領他曰受... 取像曰想... 造作曰行... 了知曰識... 亦名五蘊... 太平記二... 五經假成形... 四大今歸...

六二二ん 五經 一玉竹品 廿經 積也 聚也 同精教 集也

今經を 意よりしき

佛の 法 色 受 想 行 識 五ノ 稱 色ハ 吾人ノ 肉身

身ノ 變 壞 有リ 受ハ 觸 覺 身ノ 變 壞 有リ 想ハ 想 像 行ハ

心ノ 作 用 識ハ 了 識 亦 名 五 蘊

及 解 生 云 云

相 展 奉 苑 變 礙 曰 色 領 他 曰 受 取 像 曰 想 造 作 曰 行 了 知

曰 識 亦 名 五 蘊

太平記二... 五經假成形 四大今歸

長崎新龍寺門前意見 寶朝神祇世頌

イッソモ

湖南新刊工部局... 敬啟者...

大牛... 牛... 牛...

牛... 牛...

牛... 牛... 牛...

牛... 牛...

牛... 牛... 牛...

牛... 牛... 牛...

牛... 牛...

牛... 牛... 牛...

牛... 牛... 牛...

